

美術年報

1999



徳島県美術家協会

徳島県美術家協会美術年報

目 次

はじめに	徳島県美術家協会長 佐野 比呂志	1	
徳島県美術家協会規約		3	
平成9年度事業報告		4	
役員名簿(平成9・10年度)		7	
徳島県美術展開催運営要項		13	
第53回県展記録		17	
徳島県美術展審査員一覧		26	
第53回県美術展出品・入選等状況		30	
第7回放美展記録		31	
各部記録(平成10年度)			
・日本画部	部会長 中川 健	36	
・洋画部	部会長 永山 隆二	39	
・写真部	部会長 楠渕 魏	47	
・彫刻部	部会長 松永 勉	51	
・美術工芸部	部会長 山上 馨	54	
・書道部	部会長 新居 藍州	59	
・デザイン部	部会長 福井 章	63	
会員名簿			
・日本画部	68	・美術工芸部	77
・洋画部	69	・書道部	79
・写真部	73	・デザイン部	92
・彫刻部	77		
第53回徳島県美術展(県展)公募規定		93	
第53回県美術展特別・招待・無鑑査・賛助出品者名		94	

あとがき

は じ め に

第7回放美展は、平成10年5月27日（水）から31日（日）の5日間の会期で県郷文で開催となった。春の公募展としてすっかり定着し、観覧者の期待も年を重ねて大きいものを感じる。出品者に於いてもその熱意が十分うかがわれ、賞を重ねてその資格の得られる無鑑査出品者も、日本画1名、洋画4名、写真1名、彫刻2名、美術工芸1名、書道3名、デザイン2名の14名となった。こうして放美展の益々の発展が期待されることは、県美術界の将来にとってたいへん嬉しいことである。

第53回県美術展は県郷文で、第1期が日本画、洋画、写真、彫刻、美術工芸、デザインの6部門で11月7日（土）から15日（日）まで開催され、第2期は書道で11月17日（火）から24日（火）まで開催された。展示総数は、第1期が日本画等の6部門で638点、第2期が書道の551点の計1,189点であった。その内訳は入賞94点、入選966点、特別出品等129点であった。

内容も53回を重ねて充実し、各部門の審査員も等しく「大変高いレベルで、しかも大差がなく審査に苦労した」と評価された。これもひとえに出品者の方々が、多くの中央展以上に厳選である県展の宿命にも負けず、挑戦を続ける情熱と真摯な努力にほかならない。県展を愛してやまない出品者の皆様にあらためて、敬意と深い感謝の心で一杯である。

次に各部門の活動や関係美術団体、更に協会会員の活動も例年におとらずさかんであった。特に神戸、明石、淡路、徳島美術交流展は、8月20日から26日の間、県立近代美術館ギャラリーと21世紀館で行われ、明石鳴門ルート全通記念事業ホロンイベントの一つとして、美術部門では唯一の部門賞を受け、最近にないもりあがった美術展であった。実行委員の河崎良行代表をはじめ出品者の方々に心から感謝の意を表する。

個人の活動で特記しておきたいものをあげると、5月下旬「宮本 孝・宮本幸江2人展」がシビックセンターギャラリーで開催され、陶芸、彫刻、洋画の3部門の作品が展示され、特に洋画は80号から100号という大作を主に発表され好評であった。彫刻部会長の松永 勉個展が、7月中旬にそごう美術画廊で開催された。第6回ヘンリー・ムーア大賞展で受賞した風景の「舞奏」をはじめ

め、最近10年間の代表作約30点をマケット（模型）展示、作品集も出版された。写真部会長も務められた西條征二展「撫養街道・時の流れが」がシビックセンターギャラリーで9月上旬開催され、時代とともに変化する風景をモノクロでとらえ、見る人の郷愁をさそう魅力ある写真展となった。書道部委員の春藤大耿展が古稀記念展として、10月上旬に県郷土文化会館で盛大に行われ、迫力のある個展として多くの愛好者に感動をあたえた。日本画の木内トシ個展「第3回吉野川によせて」が県郷土文化会館で力作を集めて開催された。12月には、反田卓日本画個展が鳴門市の恰美術館で開催された。県展・放美展等の受賞作を中心とした集大成としての作品展で、その力量を十分見ることができ、日本画独自の美に多くの愛好者を集めた。また、平成11年1月末に、そごう美術画廊でデッサン集刊行記念河崎良行デッサン展が開催された。制作の抽象彫刻の世界とは別の写実的な裸婦デッサンの流麗さに愛好者は大きな興味をもった。グループ展としては、石井美術の会（立岩巖会長）が、9月に30周年記念展を開催し記念誌も出版、印象に残る展覧会であった。

昨年に続いて、今年も追悼のことばを記すことになるが、平成10年2月4日、89才で中川 正（隆史）先生がなくなられた。中川先生は水彩界の有名作家で、県展生みの親の一人でもあって、第1回から秀作を発表し、はやく県展招待作家となり、第47回展まで出品を続けられた。話題を呼んだ平成9年の秋の個展が最後となられた。美術工芸の森 昌男さんも10月になくなられた。森さんは協会の理事も長く務められ、美術工芸の世界では幅広く最も真摯な態度で研究を続けられ、特に晩年は藍染めの研究を深め、その才能を発揮、後進の指導にも活躍、県美術界での功績は大きい。日本画で多くの愛好者に慕われていた鳴門市の釣島義雄（冬樹）さんもなくなられた。県日本画界にとってはまことに惜しまれる作家である。亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りいたします。

最後に四国放送（放美展）、徳島新聞社（県美術展）並びに美術家協会の皆様方のますますのご発展をお祈りして、はじめのことばとします。

平成 11 年 3 月

県美術家協会会長

佐 野 比呂志

徳島県美術家協会規約

昭和23.	9.	12	規約制定	
	32.	7.	14	新規約制定
	33.	4.	29	規約一部改正
	42.	4.	23	〃
	46.	4.	29	〃
	47.	5.	29	〃
	49.	8.	22	〃
	52.	7.	23	〃
	56.	5.	5	〃
	58.	6.	5	〃
	61.	6.	21	〃
平成4.	6.	27	〃	
	6.	6.	25	〃
	10.	6.	27	〃

第1章 総 則

第1条 本会は徳島県美術家協会と称し、事務所を徳島市内におく。

第2条 本会は県内美術家の連絡を緊密にし、美術の育成発展をはかり、美術を通じて県文化の向上につとめることを目的とする。

第3条 本会は徳島県に関係のある美術家をもって組織する。会員は次のいずれかの部に属する。

- ①日本画 ②洋画 ③写真 ④彫刻
⑤美術工芸 ⑥書道 ⑦デザイン

第4条 本会は目的を達成するために次の事業を行う。

- (イ) 展覧会 (ロ) 講習会 (ハ) 講演会
(ニ) 観光美術の振興 (ホ) その他必要な事業

第2章 役員および会員

第5条 本会に次の役員をおく。

- 会 長 副会長（2名）
理 事（若干名） 監 事（2名）

会長、副会長、監事は総会で選出する。理事は各部会から5名以内推せんする。役員は任期は2年として留任をさまたげない。

第6条 本会は顧問、参与および名誉会員を理事会の推せんによりおくことができる。

第7条 会長は会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。監事はこの会の経理を監査する。

第8条 総会は毎年1回以上会長の招集により開き、会計会務の報告、役員選出、規約の改廃、その他重要事項の審議を行う。

総会は各部から選出した代議員によって構成し、出席代議員の過半数をもって議決する。代議員は30名以内の会員の部には3名、

31名以上の部には、さらに10名毎に1名選出できる。

第9条 理事会は必要に応じ会長が招集し、総会の決議による会務および緊急事項を執行する。

第3章 部 会

第10条 各部に次の役員をおく。

- 部会長・委員（部会員数の3割以内）
部監事（2名）

役員は部総会で選出する。役員は任期は2年とし留任をさまたげない。

第11条 部総会は毎年1回以上部会長の招集により開き、会計会務の報告、役員選出その他重要事項の審議を行う。

ただし、部の事情により、部委員会をもって総会にかえることができるものとする。

第12条 委員会は必要に応じ部会長が招集し、部会務を執行する。

第13条 部会の決定事項中、各種事業を協会の名において行うときは、理事会の承認を必要とする。

第14条 各部の経費は部会1人当たり、1,750円とし、その他事業収益、寄付金をもってあてる。

第4章 経 費

第15条 本会の経費は会費、入会金、事業収益、寄付金その他をもってあてる。

第16条 会費は年額3,500円とし、入会金は1,000円とする。

第17条 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(参 考)

☆昭和23年9月12日 設立総会及び発会式を徳島市役所3階議事場で行う。事務所を徳島新聞社内置く。

☆昭和24年5月3日 事務所を憲法記念館（徳島公園内の県立図書館）内へ移す。

☆昭和25年12月18日 協会バッチを選定（図案は鬼塚副会長）

☆昭和33年4月29日 今迄常任委員で運営していた協会の組織を部制を設けて、各部会長及び各部委員を選出する。協会運営は各部から選出された理事（3名～5名）によることとする。

☆昭和46年4月29日 6部（日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・書道）のうに商業美術（58年度からデザインに改称）が加わり7部組織となる。

平成9年度 事業報告

- (1) 総 会
 - 平成9年6月28日
 - 県郷土文化会館 5F第7会議室
 - 平成8年度事業報告及び決算報告
 - 監査報告・承認
 - 役員改選
 - 平成9年度事業計画及び予算審議
 - その他
- (2) 理 事 会
 - 平成9年8月30日 県展、文化協会フェア等について
 - 平成10年3月28日 放美展、県展等について
- (3) 第52回県美術展
 - 第1期 平成9年11月8日(土)～16日(日)
日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・デザインの646点
展示
 - 第2期 平成9年11月18日(火)～25日(火)
前期 11. 18～11. 21 後期11. 22～11. 25 書道の583点
展示
 - 第52回展受賞者表彰式 平成9年11月8日(土) 徳島プリンスホテル
- (4) 第6回放美展
 - 平成9年5月1日(木)～5月5日(月)
日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・書道・デザインの
598点展示
 - 受賞者表彰式
平成9年5月3日(土) 県郷土文化会館 第7会議室
- (5) 第1回県文化協会フェア
 - 平成10年2月13日(金)～15日(日)の3日間
 - 県郷土文化会館
 - 各部から出品(日本画8点、洋画12点、写真11点、彫刻7点、美術
工芸5点、書道31点、デザイン5点)
- (6) 県展・放美展会議
 - 第52回県展運営委員会・県展事務局員会議
(平成9. 5. 24、9. 9. 20、9. 12. 2、10. 2. 20)
 - 第6回放美展運営委員会(9. 4. 26、9. 6. 7)
 - 第7回放美展運営委員会(10. 2. 6)

(7) 各部会行事

- 日本画部
第52回新作日本画展（9. 7. 11～13）県郷土文化会館
- 洋画部
第12回洋画部会員展（9. 5. 29～6. 1）県郷土文化会館
- 写真部
「奈良市」写真撮影会（9. 6. 22）
- デザイン部
「干支ファイナル展」（9. 12. 14～24）県立近代美術館

(8) 各種後援

- 前衛書3人展（9. 4. 1～4. 30）
- 長井公雄作品展（9. 4. 18～5. 5）
- 第21回全美展（9. 4. 24～4. 27）
- 第14回チャリティー田中双鶴書作展（9. 4. 29～5. 5）
- 書朋6人展（9. 5. 3～5. 5）
- 平山郁夫展（9. 5. 7～5. 19）
- 第42回成蹊書道会展（9. 5. 9～5. 11）
- 第12回正鋒書展（9. 5. 16～5. 18）
- 第20回写真同人「炎」作品展（9. 5. 23～5. 25）
- 第11回四国大学書道コース教員10人展（9. 5. 23～5. 25）
- 第4回澄光会書作展（9. 5. 30～6. 1）
- 島川君子展（9. 6. 13～6. 15）
- 滑東カメラクラブ写真展（9. 6. 27～6. 29）
- 第20回八虹展（9. 7. 3～7. 6）
- 第52回新作日本画展（9. 7. 11～7. 13）
- 第6回一書展（9. 7. 18～7. 20）
- 第56回世代美術展（9. 7. 24～7. 27）
- 第4回大耿会書作展（9. 7. 25～7. 27）
- 第24回旺玄会徳島支部展（9. 8. 25～8. 29）
- 第13回あすなろグループ展（9. 8. 29～8. 31）
- 第60回記念書芸院展（9. 9. 4～9. 7）
- 第21回15人展（9. 9. 5～9. 7）
- 第15回双愛書道会展（9. 9. 5～9. 7）
- 第20回泉心会書作展（9. 9. 12～9. 15）
- 第27回東玄書道会展（9. 9. 13～9. 15）
- 第26回徳島雪心会書作展（9. 9. 13～9. 15）
- 第52回青美展（9. 9. 20～9. 23）
- 第28回石井美術の会作品展（9. 9. 20～9. 23）

- 第10回記念阜玄書道会展 (9 . 9 . 21 ~ 9 . 23)
- 第27回直心会書展 (9 . 9 . 26 ~ 9 . 28)
- 第42回書協人展 (9 . 9 . 26 ~ 9 . 28)
- 第 6 回砂光篆会作品展 (9 . 9 . 26 ~ 9 . 28)
- 玉城乾香書展 (9 . 9 . 26 ~ 9 . 28)
- エナジー '97/第 3 回徳島県障害者芸術祭 (9 . 9 . 30 ~ 10 . 5)
- 第12回徳島美術学院展 (9 . 10 . 8 ~ 10 . 10)
- 四十宮年代個展 (9 . 10 . 9 ~ 10 . 11)
- 第 9 回睦月会書展 (9 . 10 . 18 ~ 10 . 20)
- 第 3 回福良和子の楽しい表装作品展 (9 . 10 . 25 ~ 10 . 27)
- 第12回藍美展 (9 . 10 . 31 ~ 11 . 3)
- 第 3 回克展 (9 . 11 . 1 ~ 11 . 3)
- 第 1 回徳島旺玄会中央出品者展 (9 . 11 . 16 ~ 11 . 24)
- 第 5 回聖邨一門書作展 (9 . 11 . 22 ~ 11 . 24)
- 第18回書研社展 (9 . 11 . 29 ~ 12 . 1)
- 第32回書道研究 清潮書作展 (9 . 12 . 5 ~ 12 . 7)
- 第27回四国大学書道コース学外展 (9 . 12 . 5 ~ 12 . 7)
- 第 1 回グループ翔結成記念作品展 (9 . 12 . 8 ~ 12 . 14)
- 第26回歳末チャリティー作品・色紙即売展 (9 . 12 . 12 ~ 12 . 14)
- デザイン部会展「干支ファイナル展」 (9 . 12 . 19 ~ 12 . 24)
- 第 3 回六書展 (10 . 1 . 9 ~ 1 . 11)
- 退職教職員協議会 悠美展 (10 . 1 . 26 ~ 1 . 29)
- 第29回ナルトぴんぼけクラブ写真展 (10 . 2 . 8 ~ 2 . 11)
- 書研女性五人展 (10 . 2 . 13 ~ 2 . 15)
- 第23回四国大学文学部書道コース卒業制作展 (10 . 2 . 20 ~ 2 . 22)
- 第16回書道研究所書作展 (10 . 3 . 21 ~ 3 . 23)
- 第24回桂鳴書道展 (10 . 3 . 27 ~ 3 . 29)

徳島県美術展開催運営要項

第1条 (名称・開催目的)

本展は徳島県美術展「以下(県展)という」と称し広く県民から個性と創造性豊かな美術作品を公募し、審査員による公開審査により優秀な作品を選び、展示表彰することにより県内美術愛好家の制作意欲の活性化をはかり、一方県民に郷土の優れた美術鑑賞の機会を提供することにより芸術文化の発展振興に寄与することを目的とする。

第2条 (主催団体)

県展は徳島県美術家協会と徳島新聞社の共催により開催する。

第3条 (開催運営の組織)

県展を開催運営するため、基本事項を審査決定する「県展運営委員会」と、主として準備計画を進める「県展事務局」とを設置する。

運営委員、事務局員の任期は2年とする。但し再任は妨げない。

〔県展運営委員会〕

運営委員会のメンバーは、県美術家協会会長・副会長2名及び各部会から2名、徳島県から1名、徳島新聞社から3名の合計21名でこれを構成する。

運営委員の中から運営委員長1名、運営副委員長2名を選任する。運営委員長は運営委員会を統括し次の業務を行う。

- 1 開催運営の基本事項について審議決定すること。
- 2 審査員候補を推薦すること。
- 3 審査方法、表彰に関すること。
- 4 収支予算、決算の承認に関すること。
- 5 その他県展開催に必要なこと。

〔県展事務局〕

事務局を徳島市中徳島町2丁目5番地の徳島新聞社事業部内に置く。

事務局のメンバーは、県美術家協会各部から2名、県美術家協会事務局1名、徳島新聞社2名の計17名でこれを構成する。

事務局員の中から事務局長1名を選任し、次の業務を行う。

- 1 出品規定、応募要項、入場券、ポスター、チラシ、図録等の印刷、受付、配布、販売等に関すること。
- 2 会場、会期、審査、搬入、搬出、運営全般の下準備に関すること。
- 3 審査員の下交渉、配宿、航空券の手配、審査日時、場所、接遇等の準備、手配に関すること。
- 4 収支予算案の作成に関すること。
- 5 開会式、表彰式の準備に関すること。

- 6 広報PRに関すること。
- 7 その他県展開催の下準備に関すること。

第4条 (出品部門)

県展の出品部門は日本画、洋画、写真、彫刻、美術工芸、書道、デザインの7部門とする。

第5条 (展示作品)

県展において展示する作品は、前条に掲げる7部門の中から次の作品とする。

- 1 一般公募作品の中から主催者が委嘱する審査員の審査を経て入選した作品及び招待、無鑑査、特別出品の作品を展示する。

その他の作品については運営委員会の議を経て展示する。

- 2 招待、無鑑査、特別出品については次の規定による。

◇次のものを招待とする。

- (1) 無鑑査出品を3回以上得たもの。

◇次のものを無鑑査とする。

- (1) 特選を連続3回得たもの。
- (2) 年間を問わず特選を4回得たもの。
- (3) 年間を問わず特選又は準特選を6回得たもの。(特選1回準特選5回、特選2回準特選4回、特選3回準特選3回、準特選6回の場合とする)
- (4) 無鑑査出品者にして、特選または準特選を得たもの。

◇次のものを特別出品とする。

- (1) 県美術家協会の会長、副会長、顧問、名誉会員、参与、審査員及び各部の会長、顧問、参与。

(注) ① 招待及び無鑑査出品者が出品しない場合は、運営委員会で認められた事由がない限りその資格を失うものとする。

② 17回展までの奨励賞は準特選と同値とする。

③ 40回展までの準特選は2回をもって特選と同値とする。

第6条 (審査員)

審査員は県外審査員とする。

審査員の選任は県美術家協会の各部会から一定数の人数を推薦し、この中から事務局で選任作業を行い県展運営委員会の議を経て決定する。

第7条 (審査)

審査は公開により行う。

第8条 (入選、入賞数)

- 1 入選、入賞数は作品の出品数の増減により多少変動する場合があるが、原則として次の範囲内に止める。

部門	区分	特 選	特別賞 (53回展の場合)	準特選	奨励賞	入 選
日 本 画		2	徳 島 県 教 育 長 賞	3	3 以 内	規 定 数
洋 画		3	徳 島 市 長 賞	5	5 "	"
写 真		4	徳 島 新 聞 社 長 賞	8	8 "	"
彫 刻		1	四 国 放 送 社 長 賞	2	2 "	"
美 術 工 芸		2	徳 島 県 美 術 家 協 会 長 賞	3	3 "	"
書 道		8	徳 島 県 知 事 賞	13	13 "	"
デ ザ イ ン		2	徳 島 県 議 会 議 長 賞	3	3 "	"

※特別賞は各部とも特選の中から最優秀作品1点に対し贈られるものです。
賞はいずれも同格で毎年部門により1つずつ順位を変更し賞を贈ります。
2 入賞は1人1賞とする。

第9条 (表 彰)

県展の入選、入賞者を次の通り表彰する。

- 1 特 選……賞状、賞金7万円
- 2 準特選……賞状、賞金3万円
- 3 奨励賞……賞状、記念品
- 4 入 選……全員に賞状

なお、特選に入賞した作品の中から特に優れた作品について次の特別賞を贈る。

- 1 徳島県知事賞 1名
- 2 徳島県議会議長賞 1名
- 3 徳島県教育長賞 1名
- 4 徳島市長賞 1名
- 5 徳島新聞社長賞 1名
- 6 四国放送社長賞 1名
- 7 徳島県美術家協会会長賞 1名

※特別賞の選考方法については別にこれを定める。

第10条 (収支予算)

県展の開催、運営に要する経費は次のものをあてる。

- 1 出品料
- 2 入場料
- 3 図録売り上げ及び広告料
- 4 各種補助金
- 5 その他

県展の支出経費は事務局長の承認を経て行い必ず証票をとり、毎年12月末に決算を行い、2月に開催する運営委員会に報告し承認を得るものとする。

第11条 (出品料・協賛費)

県展の出品料及び協賛費は次の通りとする。

- 1 県美術家協会員の出品料は1点2,500円、2点目から1点につき1,500円とする。
- 2 一般の方の出品料は、1点3,500円、2点目から1点につき1,500円とする。
- 3 招待、無鑑査、特別出品者及びその他審査を受けない者の協賛費は、1点2,500円とする。

第12条 (入場料)

県展の入場料は次の通りとする。

- | | | | | | |
|---|-------|-----|------|----|------|
| 1 | 一般大学生 | 前売り | 500円 | 当日 | 600円 |
| 2 | 高校生 | 前売り | 250円 | 当日 | 300円 |
| 3 | 中学生 | 前売り | 150円 | 当日 | 200円 |

第13条 (附 則)

本要項の規定は昭和61年9月から実施する。

本要項の改訂、修正は県展運営委員の3分の2以上の議決を経てこれを行うものとする。

平成4年2月22日 一部改正

平成4年5月16日 一部改正

平成8年5月25日 一部改正

第53回県展記録

会期 (第1期) 平成11年11月7日(土)~15日(日)
(第2期) 平成11年11月17日(火)~24日(火)
会場 県郷土文化会館

日本画

- 〔審査員〕 那須 勝哉
〔招待〕 長尾 弘子 村上 凌雪 橋本 正弘 中川 健 岡 英彦
土方るみ子 西野 和男 土井 洋子
〔賛助出品〕 森 薫苑 高田 瑞雪 長谷 壽
〔特選〕 鶴 悦子 (県教育長賞)
富田 達子
〔準特選〕 橋本 隆雄 板東 博美 黒田 實
〔奨励賞〕 佐々木文子
〔入選〕 久保協吉二 井内カヨ子 藤村美津子 柳田 一子 板東多恵子
日浦 猛史 市川 義幸 長尾佳余子 幸田 道子 林 幸子
西村美也子 反田 卓 竹内 尉子 藤原 満代 斎藤 春子
坂 容子 平野ひろみ 佐藤 晴子 吉坂美智子 濱口 芳春
川原 光恵 江本美千代 三木 義博 福田佳代子 永井 貞枝
森岡 順子 中西 芳雄 四宮 恵美 木内 和美 秋元よし子
田尾 富子 南 清子

洋画

- 〔審査員〕 藤田 吉香
〔特別出品〕 佐野比呂志 永山 隆二 長井 公雄
〔招待〕 清水 亟愼 川原 康孝 楠瀬 等 高橋 敬 立岩 巖
露口 敏幸 服部 裕 岡本 征二 長尾 弘久
〔賛助出品〕 浅田 二郎 天野 節 岡 多美子 柏木 雅雄 河田 安市
黒崎 志郎 後藤田仁一 板東 俊一 榊田 務 松川 寛
岡田 守
〔特選〕 新田 恭子 (徳島市長賞)
伊勢 浩章 大平 数子
〔準特選〕 越久 高照 吉永 房子 玉田 秀子 西條 明彦 三谷ミヤ子
〔奨励賞〕 鈴木 明雄 浜田 益子 楠 雅子 萱谷 修二 大西 文代
〔入選〕 岡田 信一 中山 清一 西崎 志帆 武田 洋子 為實 啓剛

長田 武夫	島川 君子	日出美佐江	片山 富市	島村 英之
岡田 和泰	丸関 朋子	川田 績	三好 初子	佐藤 敬子
佐々木 超	阿部 昌子	奏 克之	出張 徳夫	谷崎 泰江
騎馬 政美	岩谷 明	下地磨理依	井沢 忠昭	浅山 久子
市川 愛子	篠崎 真理	林 廉太郎	服部 隆子	岡田 光代
藤井 香世	平尾マサミ	宮井 一三	三好加奈江	大西利津子
田渊 浜子	浅井 香織	為實美恵子	吉田収二郎	湯岑エミ子
久米 正明	杉本 澄子	井利美寿穂	木下 博子	林 静代
唐渡 覚	原田チエ子	国見シゲミ	山下日出子	桐島 豊子
吉田 実	宮本 俊介	大野 文雄	北 美智子	南城ミツ子
四宮 良子	山尾 敬子	福良 哲子	住友富美子	浜尾みつこ
近藤 忠子	木下 和江	曾我部秀子	川原 禮子	村瀬 皐月
関 京子	石川 安恵	藤本 千秋	三木 好子	大守 綾子
加川由紀子	田野 安子	北島 溢美	元廣 俊子	小川しのぶ
河本多恵子	高橋 朗子	田中 康子	中本真由美	藤原 康夫
藤本 晴子	岡田 博信	喜多 直彦	中辻奈美枝	岡田 由子
伊藤 紀子	松浦 節子	西條 敏夫	近藤 克子	増井 厚子
島上 二郎	志摩 政照	市村 千恵	島田美奈子	西谷 星美
辻野 正廣	岸本 花子	原田 邦彦	岩佐 京子	岡島 順子
若山 一恵	大西 道夫	若峽 論		

写 真

- 〔審査員〕 高田 誠三
- 〔招待〕 増田 清次 井上 光雄 木田 英之 西條 征二 勝西 雅夫
 藤井 梵 武内 亨 笹田 敏雄 櫛淵 魏 酒井 博司
 三好 和義 上野 照文 森 賢一 橋本 圭祐 安長 剛
 前浦 芳久 荒井 賢治 林 敏彦 多田 晴美 古井 謙吉
 中野 建吉
- 〔無鑑査〕 柳本 正 井藤 光章
- 〔特選〕 多川 静守 (徳島新聞社長賞)
- 〔準特選〕 前坂 祥文 志摩 育美 竹内 勝
 川真田慶治 吉村 敏嗣 森内 昭男 増田 寿 堀口 幸男
 小原 治 谷 賢太郎 岡村 清
- 〔奨励賞〕 稲井 芳男 大西 穂積 形田 耕一 野藤みきよ 河田 清
 木下 昇 清水 宗保 久保 英樹

〔入 選〕 川真田慶治 今出 弘 竹岡 章 森 光(2) 粟田ふさえ(2)
 三木 理司 森川ミサ子(2) 柳川 信子 中川 定典 板東 泰雄
 佐野 辰夫(3) 富永 幸子 横田 正敏 福原 敏雄 一宮 由子
 内田 忠秋 毛利 次郎(2) 妹尾 早苗 佐藤 考利 田村 泰弘
 尾崎 利男 岸上 俊博 梶村 鉄次 山本 玉見 小林 保子
 林 晴之 岩本 忠幸 守原 修 大西 啓子(2) 一宮 喜八
 木村 憲通 川崎美智夫 板東よしお 稲井 芳男 吉村 敏嗣(2)
 藤田 卓嗣 佐藤 義雄 森内 昭男 大林 義治 美馬 弘典
 忠津 和憲 大西 穂積(2) 中山 良男(2) 形田 耕一 篠原ひとみ
 大野 武 高木 伸幸 折野 理悦 増田 寿(4) 井上 憲治(4)
 板東 敏晴(3) 佐治 孝(3) 野藤みきよ(2) 野藤 敏美(2) 後藤 文男
 堀口 幸男 田処 正明(2) 大津 勝治(2) 長谷 昌男 木地屋勝行
 元木 強 林 佳子 吉田 圭作 内田 忠宏 梅久 匠(2)
 村岡 洋一(2) 横山 勘一 瀬尾美智代 多川 静守(5) 故島 永幸
 河田 清(2) 大野 泰子 川村 泰史 浦上 文夫(2) 大浦 孝悦
 後藤 正巳 長山 威男 木下 昇 田中喜久夫(2) 清水 宗保(4)
 谷 賢太郎(2) 村井 寛(2) 赤木 昭子(3) 森住 博(5) 前坂 祥文(2)
 向 儀一郎(2) 播 博文(2) 梅本 貞範(3) 大和 健司(5) 土橋 成行
 国見 良幸(5) 宮本 幸治(2) 辻 義徳 西野 倫子 板東 律雄
 寺澤 賢信 逢坂 和幸 矢野 志江 吉田 仁志 久保 英樹(4)
 安倍 幸子 潮 満寿子 笹尾 佳一 林 達也(4) 上杉 大一(8)
 吉田 弘 宮野 菁伍 志摩 育美(2) 三木 啓治 新居真一郎
 松本 春子 杉本 正利 三好 友明(2) 高田 為一 船越 正文(5)
 和泉 勝(2) 溝渕 寛治 佐藤 章代 坂東 裕子 日出 顕作
 岩崎 英昭(2) 坂東 進(3) 藤本 宗子(4) 東丸 定子(2) 近藤 恵子
 岡村 清(3) 佐古 吉男 津田 憲昭 矢部 弘子

彫 刻

〔審査員〕 番浦 有爾
 〔特別出品〕 河崎 良行
 〔招待〕 佐藤 隆 大津 文昭 濱口 恵 井下 俊作 鎌田 邦宏
 松永 勉
 〔無鑑査〕 居上 真人
 〔贊助出品〕 長岡 強
 〔特 選〕 笠井 正彦 (四国放送社長賞)

〔準特選〕 蒔田 寿 渋谷 吉昭
 〔奨励賞〕 津越真由美 東 安一
 〔入選〕 田村 純子 吉見 俊介 西島 登 玉田 悦子 棕本 幸男
 山田 礼美 川真田武夫 小川けい子 元木 衣里 東 光司
 阿部 俊江 加藤美津子 原田 綾 中川 伸一

美術工芸

〔審査員〕 宮田 亮平
 〔特別出品〕 山上 馨
 〔招待〕 新居 猛 高橋 勇 多智花佐代子 松下 雄介 松下 慶一
 森 賢一 橘 恵
 〔無鑑査〕 犬伏 絢
 〔賛助出品〕 村上 正典 中川 存
 〔特選〕 森 明治 (県美術家協会会長賞)
 井後 善朗
 〔準特選〕 斎藤 和彦 吉田 真弓 藤井 哲信
 〔奨励賞〕 平井 恵子 丸居 哲雄 岡崎 益子
 〔入選〕 佐木川 允 越 由子 佐木川みのる 椎野 寿子 野村 裕子
 橋本 一成 徳川 道泰 楠 博子 森 克江 吉田 敏明
 川真田泰裕 伊豫 義之 工藤 恵子 北島 洋史 矢野順三郎
 武田 美子 森 美津子 阿部 史 田村 純子 吉田 陽子
 田村 佳代 田村 祐子 鷓山 早苗 宮本 真弓 四十宮年代
 宮本 秀夫 野田 理人 松山 豊 戸田 智 西川 和美
 槌谷 昭子 前野 亮治 加藤 伴江 国井 秋子 篠原 紀子
 檜原 道雄 檜原フサコ 龍木 秀子 森 寛 林谷 瑞穂
 岡田 好文 中口 雅彦 矢野 雄也 吉成 亀雄 阿部 徳子
 濱口 由美 富永 裕子 山川志都子 矢野 裕福 住友 良英
 椎野 隆子 桜井 慎治 阿部まきみ 佐藤タマエ 青山 美佳
 青木 房江 佐々木明乗 山田 和子 隅田 良佑 堤 公代
 落久保重利 麦倉 紀子 島田 弘美 寒川 治雄 松代 映子
 鈴江 美鈴 高原真理子 森 和良 斎藤 勝彦 平野 竜二
 中峯ゆかり 大木 由紀 西山多恵子 新見 清香 矢野 和子
 小栗加代子 折原 香子 川真田 弘 金沢 美穂 太田 裕子
 吉田 晃子 矢野 明美 橘 美根子 角田美富根

書 道

- 〔審査員〕 杭迫 柏樹 藤木 正次 吉田 正堂
- 〔特別出品〕 荒井 天鶴 田中 双鶴 田中 栢翠 新居 藍州 讃岐 泰泉
- 〔招待〕 久保 幽香 宮井 青雨 長原 皐鵬 高原 清泉 西 南龍
- 成尾 荘秀 渡辺 草石 原田 霄月 芝原 醒鶴 前川 古舟
- 清水 桂月 美馬幾美賀 春藤 大耿 岸 潮風 中谷 史子
- 長谷 美峰 勝瀬 景流 川上 虹泉 近藤 静苑 上田 溪水
- 日下 溪翠 岡島 順子 荒井 彭仙 竹田 和代 山口 華城
- 藤若 美風 武市 鳴雲 中尾 勝子 佐藤 真 富久 鳴泉
- 永松 春苑 島田 小園 坂本 霄風 浜 佳香 隅田 英二
- 松本 清香 多田 清芳 玉城 乾香
- 〔無鑑査〕 薄田 玲泉 能仁 華瑤 宇山 泰鳳
- 〔贊助出品〕 東 南光
- 〔特選〕 佐藤 恵子 (県知事賞)
- 高田 孝子 古川 恵巳 豊浦 佳子 宮守 とみ 三浦富美代
- 向井 京子 岩本 雅三
- 〔準特選〕 松永 浩子 西岡 詩朗 矢部 知子 川村 真澄 鶴澤 静佳
- 山本 美幸 増田 愛子 小出 圭子 東 弥生 平岡 郁子
- 山口 文子 佐藤 正江 稲江 司子
- 〔奨励賞〕 高井 初子 小松 美佳 福永久美子 戸出 浩子 河野多美子
- 上田 久恵 赤川久美子 枝川 照子 藤原 育代 柴田 公代
- 久米川信美 矢野 照代 佐藤由紀代

〔入選〕

漢字の部

- (前期) 谷口 統雄 井村 信子 蔭尾 勝子 山田美江子 南 香織
- 青野 美知 山西 博子 田村 栄子 大島 明美 和泉美津子
- 横井三知代 大平美代子 笠松八重子 鳩成 広美 山下 庸子
- 川上 益世 美馬 潤子 富永 恵以 大塚美代子 高田 嘉代
- 阿部 千明 浜田真由里 植村 恭子 小出 圭子 稲木 裕美
- 佐藤 千紘 横田 岩夫 松下 寅雄 枝川 治子 西野 幸
- 松永 裕子 福田世津子 大野シゲ子 丸谷美代子 久積 晃
- 奏 照子 折野 茂幸 村部 幸子 大下 富江 原 貞子
- 松浦 幸子 豊原 淳子 立石 桂子 浅川 陽子 勢井小夜子
- 笠原 笑子 紅露 照雄 詫間 敬久 平井 由基 平井 久世

西野 道夫	細川 美佳	河野 雅美	四宮 千春	山路 仁
岡島 倍子	馬淵 直枝	飯田 公子	岡島 由佳	岡島 有里
天野 和子	片山 浩	黒田 早苗	橋本 康喜	八木 澄江
林 みゆき	中川 昭代	有井 清	亀石 二三	弘田 敏章
橋本 京子	新居 鉄郎	森 孝司	馬居美智恵	鈴木エリ子
田上 洋子	細川 武治	山内 紀隆		

(後期)

柴田 勝	福田 政子	須見 智香	吉平 順子	元木 英文
中尾三智子	吉成啓一郎	奏 知美	市川美智子	若木 恭子
笠原小夜子	粟飯原優子	鎌村 明子	青木 博美	横山 弘美
米澤 司子	藤村 恭子	藤岡千江子	井内 裕子	熊代 厚子
吉田 京子	横田あかね	真鍋 洋子	山中 佳子	安原 照代
南 勝雄	阿部 博子	山路 靖子	山本きよみ	山城美三子
吉田 和子	種ヶ嶋美恵子	桑田 次雄	黒田 美穂	武田 陽子
中川恵美子	奥田 文子	洲崎 忠雄	吉本 和代	小西貴美子
長尾 愛子	野口 有香	福家 佳余	横田 典子	四宮 恭子
森 千晃	山根 洋子	吉田 幸代	佐藤 一美	由宇 典代
小林 忠志	浜田 悦子	石井 瞳	田中 育子	谷本 洋子
藤田喜美代	川辺 光俊	鈴木 正友	鈴木 岳大	寺内 金子
國方 智子	大本由紀子	駒田 澄子	海原 進	以西 寛敬
久保 朝子	富山 雅美	加村喜美子	辻 尚子	児島重一郎
黒橋由加里	赤松 茂幸	山下弥栄子	富永泰寿子	橋本 聖子
片山 芳明	向井美由希	山腰 知子		

仮名の部

(前期)

木田 嘉子	宮崎 早苗	川口 珠枝	朝井 邦子	井上 まり
井内 光子	益田 昌子	松本由希子	佐藤 恵美	加藤 昭子
荒木喜美子	大島 幸子	遠藤 由子	岡島 公子	市橋ヒデコ
林 孝枝	中野 幸子	甲谷 慶子	福良美代子	宮本 敏夫
倉本 節子	佐川 公子	柰木真佐子	樫原 孝子	坂野 雅子
坂東 光子	佐野チヨミ	井内 愛	東 円子	河野紀代子
竹田 昭美	由利 里子	木村 弘子	吉田 容子	廣島 章子
岸田いち子	山中 佳子	西岡 咲子	吉川登志子	濱川 美紗
原田 尚文	井上 彰夫	近藤マサエ	小西 敬子	佐藤美智代
上田 久子	平野 幸子	豊原 淳子	山中 真紀	増田 恵子
井川 幸子	草苺 明美	詫間 勝子	西浦 智頼	武市 勝恵

西村 泰子	三浦由希子	高橋 宗見	菖蒲 和代	伊藤 秀子
井上小百合	山本 恵子	吉田美重子	吉田 幸代	妹尾 敏子
足達 玉美	西 直子	松浦 智子	武市 直子	森 裕美子
亀石 二三	畠山 政子	山本 晶子	梶 真理子	内田 麻紀
加村喜美子	湯浅 美香	前田 愛	谷岡 美和	藤井美樹子
宮地 妙子	辻 尚子	山腰 知子	武田 陽子	森岡 暁子

(後 期)	椎野 国子	楠瀬 恭子	椎本 敬子	柏原 栄子	竹内 英子
	背川 章子	程野 政子	鶴本 彰子	高島 智子	皆谷 露子
	大西 順子	武田 詩夜	竹中 敏恵	渡辺 正史	大島 弘子
	中田 幸子	阿部 智恵	繁崎登美子	根津不美子	湊 泰子
	水口 久枝	森 弥生	高島 瑞峰	河野 静江	川人 皓月
	町田 哲子	笹田 真里	佐藤 紀子	叶井 清子	木村トヨ子
	笠井 宣江	法村 暁子	丸岡 智子	曾我部富美	下村 清子
	斎藤 弥生	堤 薫子	野口 和子	西宇 明美	吉岡 栄子
	中西 甫子	尾田 艶子	出口末喜子	高島美恵子	浅野 義雄
	中谷つや子	瀧倉 理恵	杉本千枝子	吉本 道子	魚井イチエ
	阿部 豊彦	中村 絢子	古郷 弘江	竹中喜代子	宇津 清子
	米田 重子	市川 陽子	鈴江美音子	笠原小夜子	楠本 倫子
	久住 律子	加藤かつ子	板東 準子	播磨 恭子	稲垣 幸
	部 品子	向井美由希	前田 房子	近藤真千子	辻 映子
	伊丹 志織	住友さつき	森西美也子	川崎 景子	山本 真子
	山本 愛美	日下壽美子	中野 幸代	古川 智野	江島知恵子
	山崎 秀美	熱田 倫子	橋本 聖子	鳥庭 貴子	上野 敦代

近代詩文の部

(前 期)	高岡喜美子	高瀬 善郎	竹井 澄子	武田 淳子	谷口 昭子
	谷本 清子	富永美知子	長井 洋子	長原 七与	沼田 裕司
	浜口 敏子	春名 完二	引地 美貴	福永 培子	福山 啓子
	藤本 優子	丸田 三恵	宮田 昭二	森本知世子	山崎ひとみ
	吉川 尚子	吉田さい子	吉本真理子	和田 悦代	渡邊 亜希
	石田 久子	江原美津子	遠藤 禎子	大石 正	大崎 辰雄
	大西 英子	大野 秀子	小川佐江子	折田 浩子	川下小夜子
	川端喜美子	木田 史子	久米 安弥	幸田 康代	河内 育美
	坂尾 俊一	沢村 清美	下野 順子	新開ひとみ	瀬部 洋子
	崎山小夜子	長尾由美子	米本 元枝	市原亜希子	打川 美紀

川人 宏子 楠 恵利子 桜間 好佳 安瀨 靖慧 山科あすか
上原三千代

(後期) 高岡 清 高橋美知江 武市三奈子 武樋 清子 谷口 陽子
出原とし子 豊村 啓輔 長野 裕子 仁木しもえ 野田 洋子
春川 登 板東タマエ 福田 和子 福本 朗子 藤井フサエ
丸岡 良子 三澤多美子 森岡 禎子 山口 信子 横谷千代美
吉坂希実子 吉田佐知子 若林 節子 和田富美子 朝三 和子
磯 富美代 遠藤玻都恵 大井多鶴子 大久保利江 大島 清子
大西千鶴子 岡川 泰江 小野 幸久 加島 俊彦 河野 富子
岸 緑 櫛渕 洋子 桑村 清 児玉 幸子 小坂ハナエ
佐原 武子 島田 利枝 清水 三枝 瀬戸内美代子 榊原早知子
笹田 和美 吉岡 詔子 天野 豊 磯田 久子 大津 明美
木内エツ子 小西 和美 早川美智子 山本 陽子 吉積 恵子
玉城 豪

前衛の部

(前期) 林 浩一 永井 厚子 松村 裕子 田村 定雄 柏尾美恵子
高松 輝子 阿部 公恵 山本 晶子 麻植塚由佳 福本早矢賀
前川わかな 伊丹 明美 大坂 昌代 中川 富量 山元 敏史
中内 久美

(後期) 池田紀代子 西岡 珠子 芝 憲彦 荒井 和子 村田 泰輝
永濱 由美 真田 秋江 林 寛子 伊藤 真美 山本 真子
小山 育美 島尾 明良 中川 博雅 山西 博子 義富 博正
佐藤 恵子

デザイン

〔審査員〕 早川 良雄
〔特別出品〕 福井 章
〔招待〕 浅野 昌哉 斎藤 繁次 坂野美恵子
〔賛助出品〕 坂本三千一
〔特選〕 四十宮隆志 (県議会議長賞)
小笠原重昭

〔準特選〕	北島 豊嗣	沢口 功	大東 浩司		
〔奨励賞〕	溝渕 良枝	斎藤 剛	荒瀬 奈緒		
〔入選〕	寺本 礼子	花待 智子	大西 和美	斎藤志津子(2)	栗城真理子
	片桐 祐子	丸岡 明子	岡 加奈子	小笠原ヒロミ	小笠原重昭
	溝渕 良枝	沢口 功	尾形 淳	春川 法古	藤井 弘美
	大浦 晃裕	桂 真由美	小川 優子	岩佐美友紀	吉成 敏史
	石田 武	渡部 理子	中瀬 選花	本庄美沙子	天羽 恵子
	斎藤 剛	四十宮隆志	久次米 智	堀 恵理子(2)	長井 貴志
	佐藤 紀子(2)	折野多賀子	荒瀬 奈緒	伊賀 加奈	木村 香織
	張 由香里	阿部万里子	東 和美	川西 正洋	岡本 麻美
	佐々木 愛	佐々木美佳	平川 りえ	筒井 万貴	

徳 島 県 美 術

部門 回数	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑
1	委 員	{野 間 仁 根 家 永 騏三郎	委 員	
2	大 栗 旌 折	野 間 仁 根	上 田 備 山	{太 田 三 郎 坂 東 文 夫
3	委 員	伊 原 宇三郎	同 上	{太 田 三 郎 鹿 東 内 文 夫
4	委 員	須 田 国太郎	同 上	同 上
5	上 村 松 篁	田 村 孝之介	小 野 由 行	{太 田 三 郎 坂 東 文 夫
6	西 山 英 雄	伊 藤 継 郎	川 崎 亀太郎	同 上
7	山 口 華 楊	田 川 勤 次	棚 橋 紫 水	新 田 藤太郎
8	池 田 遙 村	須 田 剋 太	同 上	{太 田 三 郎 坂 東 文 夫
9	水 田 竹 圃	小 出 卓 二	同 上	同 上
10	管 楯 彦	{鈴 木 信太郎 野 間 仁 根	同 上	同 上
11	奥 村 厚 一	井 上 長三郎	岩 宮 武 二	同 上
12	浜 田 観	福 沢 一 郎	棚 橋 紫 水	同 上
13	小 松 均	藤 井 令太郎	同 上	{辻 東 晋 堂 坂 東 文 夫
14	秋 野 不 矩	針 生 一 郎	岩 宮 武 二	針 生 一 郎
15	奥 村 厚 一	向 井 潤 吉	棚 橋 紫 水	管 沼 五 郎
16	同 上	吉 原 治 良	岩 宮 武 二	柳 原 義 達
17	松 尾 冬 青	中 谷 泰	同 上	向 井 良 吉
18	矢 野 鉄 山	池 島 勘治郎	同 上	安 田 周三郎
19	中 村 貞 以	森 芳 雄	堀 内 初太郎	堀 内 正 和
20	曲 子 光 雄	桂 ュキ子	岩 宮 武 二	植 木 茂
21	沢 野 文 臣	伊 谷 賢 蔵	同 上	佐 藤 忠 良
22	堂 本 阿岐羅	村 井 正 誠	同 上	辻 晋 堂
23	松 岡 政 信	山 下 大五郎	岩 宮 武 二	井 上 武 吉
24	山 崎 忠 明	大 沢 昌 助	棚 橋 紫 水	菊 池 一 雄

展 審 査 員 一 覧

美術工芸	書 道	デ ザ イ ン
鬼塚信之	委 員	
同 上	田 中 白 村	
同 上	炭 山 南 木	
同 上	炭山南木・織田子青	
同 上	手 島 右 卿	
〔鬼塚信之 新 田 藤太郎〕	同 上	
鬼塚信之	小 坂 奇 石	
明石朴景	辻 本 史 邑	
会田裕宣	織田子青（漢）・出口草露（仮）	
鴨 政 雄	松 井 恕 流	
近 藤 悠 三	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰	
平 松 宏 春	同 上	
同 上	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠	
大 西 忠 夫	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰	
明 石 朴 景	同 上	
平 松 宏 明	同 上	
大 西 忠 夫	同 上	
鴨 政 雄	同 上	
平 松 宏 春	同 上	
内 田 邦 夫	同 上	
山 脇 洋 二	同 上	
槻 尾 宗 一	同 上	
山 脇 洋 二	荒井天鶴・後藤泰秀・田中双鶴 田中栢翠・富永眉峰	

部門 回数	日 本 画	洋 画	写 真	彫 刻 (46回まで彫塑)
25	奥村厚一	齐藤真成	棚橋紫水	原 武 典
26	梶 喜 一	島 村 三七雄	同 上	掛 井 五 郎
27	上 原 卓	高 田 誠	伊 藤 知 己	松 村 外次郎
28	黒 光 茂 樹	中 間 冊 夫	岩 宮 武 二	小 畠 広 志
29	松 岡 政 信	島 田 章 三	同 上	保 田 春 彦
30	黒 光 茂 樹	田 中 岑	同 上	篠 崎 明 雄
31	河 合 健 二	田 中 忠 雄	同 上	江 口 週
32	長谷川青澄	山 口 長 男	{ 岩 宮 武 二 伊 藤 知 己	一 色 邦 彦
33	松 岡 政 信	吉 井 忠	{ 岩 宮 武 二 秋 山 庄 太郎	柳 原 義 達
34	山 岸 純	小 西 保 文	岩 宮 武 二	清 水 九兵衛
35	樋 笠 数 慶	荻 太 郎	同 上	桜 井 祐 一
36	坂 口 麻 沙 子	吉 井 淳 二	同 上	土 谷 武
37	下 田 義 寛	野見山 暁 治	同 上	山 本 正 道
38	同 上	須 田 寿	高 田 誠 三	清 水 九兵衛
39	同 上	齐 藤 真 一	同 上	城 田 孝 一 郎
40	下 保 昭	津 高 和 一	{ 岩 宮 武 二 高 田 誠 三	清 水 良 治
41	橋 田 二 朗	小松崎 邦 雄	奈良原 一 高	淀 井 敏 夫
42	松 本 哲 男	国 領 經 郎	岩 宮 武 二	木 津 一 夫
43	山 岸 純	利根山 光 人	三 木 淳	橋 本 省
44	平 川 敏 夫	赤 穴 宏	高 田 誠 三	山 崎 猛
45	福 井 爽 人	桜 井 寛	三 木 淳	土 谷 武
46	岩 沢 重 夫	大 森 朔 衛	三 木 淳	峯 田 敏 郎
47	穂 田 一 稗	谷 本 重 義	立 木 義 浩	小 島 弘
48	田 淵 俊 夫	大 沼 映 夫	杵 島 隆	小 建 畠 覚 造
49	中 路 融 人	馬 越 陽 子	杵 島 隆	綿 引 道 郎
50	下 田 義 寛	三 栖 右 嗣	奈良原 一 高	古 島 実
51	工 藤 早 人	中 根 寛	齐 藤 康 一	恩 田 静 子
52	那波多目功一	松 樹 路 人	細 江 英 公	石 井 厚 生
53	那 須 勝 哉	藤 田 吉 香	高 田 誠 三	香 浦 有 爾

美術工芸	書道	デザイン (37回まで商業美術)
藤本能道	荒井天鶴・後藤泰秀・田中双鶴・田中栢翠 富永眉峰	
三井安蘇夫	同上	金野弘
六角顯雄	同上	大智浩
鈴木貫爾	同上	早川良雄
田村耕一	同上	原弘
山脇洋二	同上	田中一光
浅野陽	同上	奥野英雄
前田泰次	同上	灘本唯人
山脇洋二	同上	大高猛
中村光哉	荒井天鶴・久保幽香・讃岐泰泉・田中双鶴 田中栢翠・富永眉峰・新居藍州	福田繁雄
山脇洋二	同上	永井一正
田村耕一	荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰 西岡楚峰	山城隆一
同上	同上	粟津潔
山下恒雄	荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰	田中一光
同上	同上	長友啓典
浅野陽	荒井天鶴・久保幽香・讃岐泰泉・春藤大耿 高原清泉・田中双鶴・田中栢翠・長江清幽 新居藍州・西岡楚峰	亀倉雄策
中村光哉	明石春浦・坪井正庵	伊蔵憲治
浅野陽	桜井琴風・黒野清宇	サイトウ・マコト
山下恒雄	大岡皓崖・山田伍雲・西野象山	佐藤晃一
三浦小平二	花田峰堂・小山素洞・東地滄厓	河北秀也
松永勲	浅見綿龍・森本妙子・加藤大碩	松永真
山下恒雄	近藤摂南・東山一郎・中野北溟	浅葉克己
島田文雄	谷村憲齋・植村和堂・太田義久	藤井三雄
大西長利	安原皐雲・池田桂鳳・金子卓義	五十嵐威暢
山下恒雄	鈴木桐華・西本支星・金子聰松	青葉益輝
島田文雄	尾崎邑鵬・井茂圭洞・大井綿亭	松永真
中井貞次	栗原蘆水・榎倉香邨・種谷扇舟	安西水丸
栗木達介	甫田鷄川・小山やす子・石飛博光	U. G. サトー
宮田亮平	杭迫柏樹・藤木正次・吉田成堂	早川良雄

第53回県美術展出品・入選等状況

区分		部門							計
		日本画	洋画	写真	彫刻	美術工芸	書道	デザイン	
出品数		63	265	1,290	31	154	1,227	128	3,158
人数		57	188	253	27	118	800	99	1,524
入選	率	60.3%	43.8%	18.3%	61.3%	59.7%	41.0%	42.9%	33.6%
	特別賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	特選	2	3	4	1	2	8	2	22
	準特選	3	5	8	2	3	13	3	37
	奨励賞	1	5	8	2	3	13	3	35
	入選	32	103	216	14	84	470	47	966
	計	38	116	236	19	92	504	55	1,060
落選	率	39.7%	56.2%	81.7%	38.7%	40.3%	59.0%	57.1%	66.4%
	落選	25	149	1,054	12	62	723	73	2,098
招待等	特別出品		3		1	1	5	1	11
	招待	8	9	21	6	7	38	3	92
	無鑑査			2	1	1	3		7
	賛助出品	3	11		1	2	1	1	19
	計	11	23	23	9	11	47	5	129
展示数		49	139	259	28	103	551	60	1,189

◎特別賞は特選の内数である。

第7回 放美展記録

会 期 平成10年 5月27日(水)～31日(日)
会 場 県郷土文化会館

日 本 画

[審査員]	中川 健	西野 和男				
[運営委員]	釣島 冬樹					
[理事]	森 蔦苑					
[放美賞]	西田 香奈					
[優秀賞]	木内 和美	幸田 道子	黒田 實			
[入 選]	藤村ミチヨ	四宮 恵美	橋本 隆雄	斉藤 谿春	高部 恆香	
	田村 保子	高田 芳子	吉坂美智子	田尾 富子	岡沢 茂子	
	三木 義博	福田佳代子	南 清子	三ッ本繁美	仁尾 有貴	
	江上 豊	冨田 達子	竹内 尉子	朝田 敏子	井坂 寛子	
	村上 綾	久保脇祥雲	中村 利明	柳田 一子	米沢 稔	
	西村美也子	板東多恵子	河野 利枝	厚田 文子	永井 貞枝	
	佐坂菜央美	高橋タケ子				

洋 画

[審査員]	高橋 敬	後藤田仁一	川原 康孝			
[運営委員]	永山 隆二					
[美協会長]	佐野比呂志					
[理事]	黒崎 志郎					
[無鑑査]	玉田 秀子	島川 君子	南城ミツ子			
[放美賞]	河本多恵子					
[優秀賞]	三谷ミヤ子	関 京子	佐々木 超	元廣 俊子	浅井 香織	
	浜田 益子	木下 和江	曾我部秀子			
[入 選]	桐島 豊子	川田 績	浅山 久子	原田チエ子	関 政明	
	山田 越子	福良 哲子	岩谷 明	青木 幸子	木下 博子	
	佐藤 敬子	宮井 一三	武田 洋子	中川 清隆	藤井 香世	
	長田 武夫	中川登志子	辻野 正廣	坂東佳代子	住友富美子	
	嵯峨 潤三	松浦 節子	伊勢 浩章	林 文子	草田 倫代	
	北 美智子	丸関 朋子	林 康太郎	田中 康子	大西 文代	
	泉 公恵	西條 明彦	上田喜代子	田野 安子	結城 栄子	
	大西 道夫	片山 富市	松永 絵美	岡 和生	村瀬 皐月	
	二條 均	高橋 恵	井沢 忠昭	岸本 花子	金岡 玲奈	
	吉永 房子	答島 久子	三好加奈江	小倉 英子	岩佐 京子	
	原田 邦彦	島田美奈子	平尾マサミ	騎馬 政美	藤丸 家栄	
	為実美恵子	泰地 良重	中本真由美	阿部 昌子	島田 英子	

小笠原秋子 坂東 糸枝 佐藤 友美 石川 安恵 川原 禮子
 大守 綾子 山下 みき 吉岡 秀子

写 真

〔審査員〕 荒井 賢治 安長 剛 武内 亨
 〔運営委員〕 櫛淵 魏
 〔理事〕 西條 征二 酒井 博司 井上 光雄
 〔放美賞〕 柳本 正
 〔優秀賞〕 中村 絹子 村岡 洋一 内田 忠秋 岸田 義市 瀬尾 天止
 正満 恭子 小林 保子 藤本 宗子 向 儀一郎 森住 博
 田中 伸廣 折野 理悦 堀口 幸男 野藤 敏美 近藤 恵子
 赤木 昭子 森内 昭男 中山 良男 中村 茂人 木村美紗子
 〔入 選〕 溝淵 寛治 大久保利昭 三好 友明 森 光(2) 佐藤 義雄
 川真田慶治(2) 後藤 正巳 久米 勝一 根ヶ山 治(2) 根ヶ山美江(2)
 和泉 勝 村上 利明 宮野 菁伍(2) 姫田 慎治(2) 山城三重子
 森 博保(2) 佐藤 考利(2) 中村 絹子 川村 泰史 田処 正明
 板東 泰雄 粟田ふさえ(2) 久保 英樹(3) 田中喜久夫(2) 中河美智子
 妹尾 早苗(2) 大浦 孝悦 平賀俊次郎(2) 米沢 博(2) 播 博文
 辻 義徳 川崎美智夫 久我 千鶴 大野 武(2) 菅蔵 数久
 佐々木恵子 土橋 成行(2) 中野 昭子 前坂 祥文 内田 澄子(2)
 脇川 義広 岸上 俊博(2) 河田 清 林 達也 青野 正男
 小林 芳子 矢部 弘子 森 英弘 杉本 正利(2) 岸田 知久
 小林 保子 氏家 敏晴 東丸 定子(2) 稲井 芳男 菅本 享
 佐々木敏幸 向 儀一郎 岡村 清 白石 紘三 堀口 幸男(2)
 矢野 志江(2) 中川 定典 大和 健司 板東 町江 櫛谷 文次
 三谷 敏行 上杉 大一 丸岡 節子(2) 梅本 貞範 森内 昭男
 尾崎 益貴(2) 坂東 進 牧本 正 稲井 芳男 海原 稔
 松田みゆき 樽谷 治 大津 勝治(2) 柳本 正 原井 裕夫(2)
 松本 武夫 故島 永幸 多川 静守 大西 健司 大栗 隆夫(2)
 阿部 美昭 佐古 吉男 梅久 匠(3) 岸田 義市 吉本 亮子
 富永 幸子 佐藤栄美子 新居真一郎 宮崎 行弘 岡本 清憲
 正満 恭子 志摩 育美 四宮 正恵 藤本 宗子 野藤みきよ(2)
 安倍 幸子 赤木 昭子 河見 績(2) 伊達 照子 大西 啓子
 内田 忠宏 中山 良男 木村美紗子(2) 後藤 和美(2) 瀬尾美智代(2)
 銀杏 国芳 鮎川日出一 村川 浩一 板東 律男

彫 刻

[審査員]	佐藤 隆	井下 俊作				
[運営委員]	松永 勉					
[美協副会長]	河崎 良行					
[理事]	鎌田 邦宏					
[放美賞]	笠井 正彦					
[優秀賞]	玉田 悦子	笠井 瑠美				
[入選]	椋本 幸男	斎藤 康男	東 光司(2)	東 安一(2)	玉田 悦子	
	吉川 沙織	妙玄 梨絵	小川けいこ	元木 衣里	佐藤 永恵	
	武田亜希子	池田 有紗	横川 陽子	近藤 浩行		

美術工芸

[審査員]	松下 慶一	森 賢一				
[無鑑査]	森 明治					
[放美賞]	桜井 慎治					
[優秀賞]	前野 亮治	鳥井 明子	林谷 瑞穂	矢野順三郎	吉田 敏明	
[入選]	富永 裕子	隅田 良佑	松山 豊	四十宮年代	山田 実	
	武田 美子	鶴山 早苗	加藤 伴江	久米 春江	花野 幸子	
	佐治 孝	野田 理人	川真田泰裕	桑原 勢	福岡ムメコ	
	井村アイ子	山本 義子	杉原もと子	奥尾 政子	富永 京子	
	長尾 重美	山本 隆久	坂野トシ子	堀渕 泰臣	森 克江	
	吉田 晃子	北島 洋史	佐木川みのる	有内 麻里	篠原 光彦	
	本田美智子	住友 和子	渡辺智恵子	竹内寿和子	工藤 恵子	
	小浜 光代	猪龍 生祥	多田 宏	武田 芳枝	中口 雅彦	
	天真いずみ	森本 明子	木内 文子	坂東芳太郎	楠 正陶	
	近 陶陽	湯浅カツエ	森 寛	山本美恵子	吉田 陽子	
	榎原フサコ	榎原 道雄	斎藤 和彦	高原真理子	矢野 雄也	
	矢藤 明美	井内 常子	田村 恵子	新見 清香	金澤 美穂	
	折原 香子	矢野 裕福	竹田 艶子			

書 道

[審査員]	春藤 大耿	久保 幽香	藤若 美風
[運営委員]	新居 藍州		
[美協顧問]	荒井 天鶴		
[美協副会長]	讚岐 泰泉		
[理事]	田中 双鶴	上田 溪水	
[無鑑査]	近藤 静苑	川村 春琴	中尾 勝子
[放美賞]	春川 登		

〔優 秀 賞〕	高田由里子	弘田 長風	高橋 宗見	佐野チヨミ	川端喜美子
〔入 選〕	田井 晴風	洲崎 忠雄	市原 典子	町田 哲子	宇津 清子
	瀧倉 理恵	坂野 雅子	中谷ツヤ子	井内 愛	川人 皓
	中田須美子	佐藤 松子	米田 重子	叶井 清子	浅野 義雄
	平野 幸子	桑田満里子	坂東 光子	高島美恵子	近藤マサエ
	篠原 加奈	市川 陽子	三浦由城子	上田 久子	姫野 君子
	小西 敬子	佐藤 紀子	鈴江美音子	大久保愛子	向井 幸子
	西村 泰子	糸木 明子	笹田 真理	湊 紀子	豊原 淳子
	加藤かつ子	原田 尚鳳	大林 理沙	上地 祥子	石井 瞳
	藤本満里子	中村 絢子	薮 品子	高木 房一	大塚 唯士
	西野 四郎	妹尾 敏子	吉坂希実子	森本知世子	坂尾 俊一
	徳永 逸夫	庄野 美紀	山澤 茂子	阿部 延子	野田 恭子
	大西 諭	横田 素林	吉田 和子	湯浅 博充	櫻木 享子
	阿部 恵美	勝浦ゆかり	川下小夜子	柴田 公代	沼田 裕司
	中村ノブコ	豊原 淳子	荒川 佳子	西村 泰紀	東條 里映
	西村 美保	岩崎紀美子	大平 曜子	荒瀬 有紀	森 恒子
	野口 有香	引地 美貴	荒瀬 光子	武田 淳子	小野 幸久
	上原三千代	坪内サチ子	福井 登美	橋本麻衣子	鈴木 礼居
	橋本 聖子	細川 武治	高田 博	岡 正道	中西 淑子
	新居 鉄郎	砂山 美希	向井美由希	古川悠紀子	橋本 佳代
	島 栄子	和田 白滔			

デザイン

〔審 査 員〕	坂本三千一	坂野美恵子	浅野 昌哉		
〔運 営 委 員〕	福井 章	田中 一郎			
〔理 事〕	斎藤 繁次				
〔放 美 賞〕	的井 瑞枝				
〔優 秀 賞〕	山下真由美	北島 豊嗣	大東 浩司		
〔入 選〕	海部 美紀	天野 美砂(2)	金村 潤三	江口久美子	澤田 玲子
	生川 佳代	堀 恵理子	増谷 永	丸岡 明子	片桐 祐子
	吉川 沙織	粟野 智志	阿部 哲也	林 康行	水口 知巳
	岡田 優衣	浅野 真季	筒井 万貴	背川 光恵	四宮 精子
	岡山恵美子	北島 豊嗣	数枝木 隆	大和 稔司	大東 浩司
	中川 麻美	木村 香織	阿部万里子	上藤奈保子	白井久美子
	鳴滝ゆかり	橋本 優子	石田 武		

各部記錄

日 本 画 部

部 会 長 中 川 健

年間展望

◎第7回放美展（5月27日～31日 県郷土文化会館）

6回展は65点。今回展は58点と出品点数が7点減少したが、質的には毎年向上してきている。春の展覧会として放美展が出品者に定着し、心の準備がしやすく、制作時間にゆとりがでてきているからと考える。受賞した作品以外にも魅力的な作品が少なくなかった。次回展により期待をしたい。

放美賞：「過ぎ行く夏」	西田 香奈
優秀賞：「赤い実」	幸田 道子
” 「23番 薬王寺から」	木内 和美
” 「昔日」	黒田 実

◎第53回新作日本画展（7月3日～12日 阿波銀プラザ）

放美展（春）、県美術展（秋）の間において、入落に関係なく思いきった作品を出品することができ、それが日本画人口を増やすことになるだろうと思い実施してきている。既に52回展を迎えて、その目的を十分に果たしていると考え。今回展も56点の出品があり、多くの新しい作者が、荒削りながら思いきった作品を出品していただきよかった。ただ、最近の傾向として育っていった作者が流出して、県内の中堅となっている作者が少なくなっているのが残念である。

新作大賞：「福寿草」	川原 光恵
” 「白い来客」	三木 積
新 作 賞：木内 和美・坂本 久江・昇 利弘・三ッ本繁美	
佳 作：岡沢 茂子・香山 清子・久保脇祥雲・高部 恒香	

◎第53回県美術展（第1期 11月7日～15日 県郷土文化会館）

応募点数63点、入賞6点、入選32点といった規模の展覧会であった。前回展より9点少なく残念の感が残った。しかし、審査をしていただいた日展評議員の那須勝哉氏が評された「出品作はいずれも日本画に立ち向かう熱心さがうかがわれ、レベルも一定の水準に達している。入落の線引きに苦しい思いをした」の言葉のように内容的には例年以上のものであった。

特選（数箱賞）：「枯れゆく」	鶴 悦子
----------------	------

特選	：「午後の時計店」	冨田 達子
準特選	：「阿波の遍路道」	橋本 隆雄
〃	：「廃墟の午後」	板東 博美
〃	：「閑」	黒田 實
奨励賞	：「八重垣姫」	佐々木文子

会員消息

今年も例年どおり、会員の方々がいろいろな展覧会で活躍され好評を博した。ただ、長年日本画部委員として貢献され、素晴らしい作品を発表されていた釣島義雄氏が7月13日に膀胱癌で亡くなられた。相次いで12月4日、篠原正義氏が腎不全で亡くなられた。日本画部としては大変な痛手である。お二人のご冥福を心からお祈り申し上げたい。

以下、月別に活動状況を紹介する。

3月	第36回日本南画院展	東京・京都・大阪	村上凌雪・森 蔦苑・長谷 壽 濱口芳春・斎藤谿春・久保脇祥雲
〃	村上凌雪卒寿展	阿波銀プラザ	高田瑞雪（賛助出品）
〃	第84回徳島県女流美術展	阿波銀プラザ	長尾弘子外11名
〃	高知県田野町全国水墨画展		秦 照苑・森 蔦苑
4月	日春展	東京銀座 松屋	岡 英彦・斎藤久代・土方るみ子
〃	第7回四万十川絵画展	中村市	森 蔦苑
〃	日本墨彩画展	香川文化会館	森 蔦苑・長谷 壽・久保脇祥雲 高田瑞雪・高部谿仙・藤田 實 村沢久豊
5月	阿南市展	阿南市民会館	長谷 壽・森 蔦苑・秦 照苑 久保脇祥雲
〃	鳴門市文化展	鳴門市民会館	高田瑞雪・村上凌雪・釣島冬樹
〃	第7回朱泥会展	シビックセンター	長尾弘子外27名
7月	中央展出品絵画展	県郷土文化会館	村上凌雪・森 蔦苑・長谷 壽 濱口芳春・斎藤谿春・久保脇祥雲
〃	第26回絵でみる徳島展	県郷土文化会館	永井貞溪・長谷 壽・森 蔦苑 濱口芳春・久保脇祥雲
8月	第27回徳島・仙台 文化交流美術展	仙台国際センター	長尾弘子外11名
〃	第85回徳島県女流美術展	郷土文化会館	長尾弘子外11名

9月	風力発電スケッチ展	鳴門四電ギャラリー	高田瑞雪
10月	第53回有秋会展	大阪市立美術館	森 蔦苑・長谷 壽・濱口芳春 久保脇祥雲
〃	第25回阿南市文化祭展	阿南市民会館	長谷 壽・秦 照苑・森 蔦苑 久保脇祥雲
〃	第32回珀雲社日本画展	県郷土文化会館	長谷 壽・濱口芳春・林 幸子 斎藤谿春・村上凌雪・吉坂美智子 久保脇祥雲
11月	第30回日展	東京都美術館	土方るみ子
12月	第27回歳末チャリティー 作品・色紙即売展	徳島そごう8階	長尾弘子・森 蔦苑

洋 画 部

部 会 長 永 山 隆 二

年間展望

◎第53回県美術展（第1期：11月7日～15日 県郷土文化会館）

審査員には国画会会員の藤田吉香先生にお願いした。審査評を要約して紹介すると、“全体的にレベルがそろっていて、落選した作品の中にも、いいものがたくさんあった。徳島市長賞の新田恭子「白い船の溜り」は、見た目は具象のようだが、白と黒を基調にした色彩、船の形や四角い窓など、単純化されたモチーフを選んでおり、そこに抽象的な面白さがある。特選の伊勢浩章「駅」は、路線を巧みに取り入れ、画面三分の二を占めているところが特に面白い。特選の大平数子「燻炭作り」は色彩を抑え、自然の持つやわらかさを油絵の具でうまく表現している”と話された。

◎第7回放美展（5月27日～31日 県郷土文化会館）

応募点数が176点で、入選は77点で、壁画の関係もあり入選率は43.8%という大変きびしいものとなった。しかし、出品数は昨年とほとんど変わらず定着した感がする。大変意欲的な作品が多く、レベルの高い展覧会となった。

◎第13回洋画部会員展（6月4日～7日 県郷土文化会館）

本年度は特別陳列がなくて、ちょっと淋しい感じがしたが、出品点数は79点で昨年度とあまり変わりはない。会員数の約半分を少し上まわった程度であった。それでもそれぞれの個性が出た見ごたえのある立派な展覧会になったと思う。昨年もしましたが、県展とか放美展と違って入選には関係のない展覧会ですので、会員の方々が自分たちの展覧会であるという認識をもたれて、進んで出品されることを希望します。

会員消息 （県展・放美展は除く）△住所変更 ◎新会員 掲載は郡市ごとの五十音順

- 浅山 久子 八紅展（シビックセンター）、洋画部会員展（郷文）。
- 天野 節 青美展、徳島市文化展、洋画部会員展（郷文）、日本色彩学会名誉会員・関西支部顧問。
- 伊勢 浩章 洋画部会員展、平和美術展（郷文）、日本水彩徳島支部展（阿波銀プラザ）、むつみグループ水彩画展（ヨンデンプラザ徳島）、個展（喫茶グレイス）。
- 乾 繁春 美術文化展（東京都立美術館）、関西美術文化展（大阪市立美術館）、洋画部会員展（郷文）、16人展（ヨンデンプラザ徳島）、世代美術展（シビックセンター）、美術文化四国支部展（高知ボプラ会館）、八万文化祭（八万コ

コミュニティセンター)。

- ◎宇高 桂子 女流画家協会展(東京都立美術館)、県女流美術家協会展、中央展出品絵画展(郷文)、3B展、女子美術大学同窓会展(阿波銀プラザ)。
- ◎大西利津子 八紅展(シビックセンター)、洋画部会員展(郷文)。
- ◎大野 文雄 青彩美術展(シビックセンター)。
- ◎岡 多美子 明石一鳴門ルート全通記念事業ホロンイベント参加、関西作家と文化交流、徳島県女流美術家協会84回展(阿波銀プラザ)、新象展:会員出品(東京都立美術館)、第27回徳島・仙台文化交流展(仙台市)、第1回県文化協会フェア出品、第85回徳島県女流美術家協会展、中央展出品絵画展、徳島市文化展:審査員出品(郷文)。
- ◎岡田 君代 明石海峡大橋開通記念絵画展(阿波銀プラザ)、16人展(ヨンデンプラザ徳島)、青美展(郷文)。
- ◎岡田 信一 第26回サロン・デ・ボザール展:余暇開発センター賞。
- ◎岡田 守 徳島市文化展:招待出品、洋画部会員展(郷文)、全美展、世代美術展(シビックセンター)。
- ◎尾形 正二 美術文化展(東京都立美術館)、関西美術文化展(大阪市立美術館)、美術文化四国支部展(高知ポプラ会館)、平和美術展、洋画部会員展(郷文)。
- ◎賀木 道子 第64回旺玄展(東京都立美術館)、第64回旺玄展大阪巡回展、第45回関西旺玄展(大阪市立美術館)、世代美術展、旺玄会徳島支部展(シビックセンター)、洋画部会員展(郷文)。
- ◎河田 安市 第74回白日会展:会員出品、第30回日展:入選(東京都立美術館)、洋画部会員展(郷文)。
- ◎河本多恵子 八紅展(シビックセンター)、国府文化祭(国府町コミュニティセンター)。
- ◎岸本 花子 八紅展(シビックセンター)、洋画部会員展、徳島市文化展(郷文)、八万文化祭(八万町コミュニティセンター)。
- ◎木谷 弘 世代美術展(シビックセンター)、16人展(ヨンデンプラザ徳島)。
- ◎騎馬 政美 明石海峡大橋開通記念絵画展(阿波銀プラザ)、青美展、洋画部会員展(郷文)、16人展(ヨンデンプラザ徳島)。
- ◎桐島 豊子 徳島市文化展:無鑑査出品、洋画部会員展(郷文)、八紅展(シビックセンター)。
- ◎黒崎 志郎 第51回示現会展:会員出品、第86回日本水彩画展:会員出品(東京都立美術館)、示現会徳島支部展(阿波銀プラザ)、洋画部会員展、教職員美術展:審査員出品(郷文)。
- ◎後藤ユリ子 現展(東京都立美術館)、関西作家と文化交流、徳島県女流美術家協会84

- 回展（阿波銀プラザ）、洋画部会員展、第85回徳島県女流美術家協会展（郷文）、第27回徳島・仙台文化交流展（仙台市）。
- 後藤田仁一 美術文化展：会員出品（東京都立美術館）、関西美術文化展（大阪市立美術館）、美術文化四国支部展（高知ポプラ会館）、徳島市文化展：招待出品、洋画部会員展（郷文）、世代美術展（シビックセンター）、第3回悠美展（ヨンデンプラザ徳島）。
- 斎藤 靖子 日本版画院展：同人出品（東京都立美術館）、国際平和美術展（キューバ旧国会議事堂）、徳島市文化展：招待出品、絵で見る徳島画展ふるさと、第85回徳島県女流美術家協会展（郷文）、関西作家と文化交流徳島県女流美術家協会85回展（阿波銀プラザ）、徳島・仙台文化交流展（仙台市）、15人展（ヨンデンプラザ徳島）、木版画個展（丈六寺）。
- △嵯峨 潤三 洋画部会員展（郷文）、新鋭ART' 81展（兵庫県民ギャラリー）、西宮美術協会展（西宮市民ギャラリー）、第22回ART' 81展（大阪府立現代美術センター）。
- 佐々木 超 徳島市文化展：市長賞、洋画部会員展（郷文）、八紅展（シビックセンター）、八万文化祭（八万町コミュニティセンター）、応神町文化祭（応神町コミュニティセンター）。
- 佐野比呂志 関西独立展：無鑑査出品（大阪市立美術館）、全展：委員出品（東京都立美術館）、世代美術展、全美展（シビックセンター）、徳島市文化展：審査員出品、第1回県文化協会フェア出品（郷文）。
- ◎島田美奈子 徳島市文化展：徳島新聞社賞（郷文）、八紅展（シビックセンター）、八万文化祭（八万町コミュニティセンター）。
- 清水 亟愼 コレ選展（東京銀座）、M&M作品展、洋画部会員展（郷文）、第24回個展（徳島そごう）、モダンアート協会展：会員出品（東京都立美術館）。
- 下内 裕次 モダンアート協会展（東京都立美術館）、徳島市文化展、洋画部会員展、中央展出品絵画展（郷文）、モダンアート徳島支部展（阿波銀プラザ）、個展（ギャラリーM&M）、モダンアート京都展
- 鈴江美代子 洋画部会員展、ふるさとを描き遣す会展、県老人美術展：県議会議長賞、徳島市文化展、老人福祉美術アイランド：最優秀（郷文）、旺美展中央出品者展（阿波銀プラザ）、徳島市老人美術展：市長賞（シビックセンター）、老人福祉アイランド全国大会：最高齢者賞。
- △曾我部秀子 八紅展（シビックセンター）。
- ◎田中 康子 八紅展（シビックセンター）。
- 谷 節子 旺玄会展：会友出品（東京都立美術館）、洋画部会員展、中央展出品絵画

展、ふるさとを描く遺す会展、画展ふるさと（郷文）、旺美展中央出品者展（阿波銀プラザ）。

- 玉田 秀子 徳島市文化展：無鑑査出品、洋画部会員展、第1回県文化協会フェア出品（郷文）、八紅展（シビックセンター）
- 辻野 正廣 青彩会展（シビックセンター）。
- 露口 敏幸 教職員美術展：招待出品（郷文）。
- 中村 晴代 全美展（シビックセンター）。
- 長野 満子 第83回二科展、第64回旺玄展：会友出品（東京都立美術館）、洋画部会員展、中央展出品絵画展、ふるさとを描き遺す会展、絵で見る徳島展（郷文）。
- 永山 隆二 教職員美術展：招待出品、徳島市文化展：審査員出品、洋画部会員展、第1回県文化協会フェア出品（郷文）、世代美術展（シビックセンター）、16人展（ヨンデンプラザ徳島）。
- 南城ミツ子 第30回日展、東光会展：会友出品（東京都立美術館）、教職員美術展：委嘱出品、洋画部会員展、徳島市文化展：無鑑査出品、東光会徳島支部展、中央展出品絵画展、第1回県文化協会フェア出品（郷文）。
- 仁木 幸子 八万文化祭（八万町コミュニティセンター）。
- 西川 敬子 洋画部会員展、平和美術展、第85回徳島県女流美術家協会展（郷文）、三人展（安田火災ホール）。
- 橋本 政典 日本美術家連盟会員、現代美術家協会会員
- 浜田 益子 洋画部会員展（郷文）、八紅展（シビックセンター）、八万文化祭（八万町コミュニティセンター）。
- 平尾マサミ 文化の森レストラン「竹」常設展、八万文化祭（八万町コミュニティセンター）、洋画部会員展（郷文）
- 平木 美鶴 文化庁在外一年派遣によりロンドンにて研修、第2回東京国際ミニプリントトリエンナーレ展：美術館賞、二紀展（東京都立美術展）、神戸・明石・淡路・徳島美術交流展（県立近代美術館）、ワールドプリントフェスティバル（スロベニア）。
- 福富 正二 洋画部会員展（郷文）。
- 藤川 明子 青彩美術展、全美美術展（シビックセンター）、徳島市文化展：招待出品（郷文）。
- 梶田 務 東光会徳島支部展、洋画部会員展（郷文）、梶田務油彩画展（四国大学三十周年記念館）。
- 松浦 節子 旺玄展：会友出品（東京都立美術館）、洋画部会員展、中央展出品絵画展、ふるさとを描き遺す会展、画展ふるさと（郷文）、旺美展中央出品者展

(阿波銀プラザ)。

- 三谷ミヤ子 洋画部会員展、徳島市文化展：無鑑査出品（郷文）、八紅展（シビックセンター）、レインボー富田文化展（東富田コミュニティセンター）、八万文化祭（八万町コミュニティセンター）。
- 峯 幸子 女流美術家協会小品展（阿波銀プラザ）、洋画部会員展、第85回徳島県女流美術家協会展（郷文）、人物画小品展（ギャラリー花杏豆）、む・アート展、ぐるぐる展（県立近代美術館）。
- 宮井 一三 青彩美術展（シビックセンター）。
- 元廣 俊子 八紅展（シビックセンター）。
- 山口 和子 青彩美術展、全美展（シビックセンター）、徳島市文化展：招待出品（郷文）。
- 吉田収二郎 旺玄会展：会友出品（東京都立美術館）、中央展出品絵画展、ふるさとを描き遺す会展（郷文）、旺美展中央出品者展（阿波銀プラザ）。
- 吉永 房子 教職員美術展：委嘱出品（郷文）。
- 大西 文代 青彩美術展（シビックセンター）。
- 岡田 克美 新春展（ヨンデンプラザ鳴門）、鳴門市展（鳴門市民会館）。
- 尾崎 素子 東光展：会員出品（東京都立美術館）、東光会徳島支部展、洋画部会員展（郷文）、白鳳洋画グループ展（鳴門市立図書館）。
- 鈴木 明雄 青美展（郷文）、明石海峡大橋開通記念絵画展（阿波銀プラザ）、土曜展（安田火災ホール）、新春展（ヨンデンプラザ鳴門）。
- 田淵 浜子 東光展：初入選マツダ賞（東京都立美術館）、東光会徳島支部展、洋画部会員展（郷文）。
- 北 美智子 徳島市文化展：教育長賞（郷文）、八紅展（シビックセンター）。
- 佐藤 敬子 青美展、洋画部会員展、鴨島美術グループ展（郷文）、明石海峡大橋開通記念絵画展（阿波銀プラザ）
- 福本 武子 東光会展（東京都立美術館）、東光会徳島支部展、中央展出品絵画展、洋画部会員展（郷文）。
- 福良 哲子 徳島市文化展：無鑑査出品、洋画部会員展（郷文）、八紅展（シビックセンター）、加茂谷文化祭（加茂谷公民館）。
- 井沢 忠昭 加茂谷文化祭（加茂谷公民館）、全理連美術展（東京代々木会館）。
- 大宮 和雄 青美展（郷文）、土曜展（安田火災ホール）。
- 中辻奈美枝 二紀展（東京都立美術館）、神戸・明石・淡路・徳島美術交流展（県立近代美術館）、洋画部会員展（郷文）。
- 住友 義彦 洋画部会員展（郷文）、羽ノ浦町民文化祭美術展。

- 武市善次郎 日本アンデパンダン展（東京都立美術展）、「車イス」美術部作品展：賛助出品、明石海峡大橋開通記念絵画展（阿波銀プラザ）、洋画部会員展、青美展、平和美術展、第30回記念石井美術の会作品展：賛助出品（郷文）、16人展（ヨンデンプラザ徳島）、社会福祉事業功労者表彰：身障者に絵画指導10年。
- 立石 巖 第36回全日本美術協会展（東京都立美術館）、第23回フォーカス作家選抜30号展（ギャラリーホシヤ）、教職員展：招待出品、洋画部会員展、第30回記念石井美術会作品展、第1回県文化協会フェア出品（郷文）、全美展、世代美術展（シビックセンター）、16人展（ヨンデンプラザ徳島）。
- 前野 亮治 三美展（心斎橋フジギャラリー）。
- 松川 寛 モダンアート協会展（東京都立美術館）、モダンアート協会京都展（京都美術館）、燎4人展、洋画部会員展、平和美術展、第30回記念石井美術の会作品展（郷文）、ドイツ・オランダ・ベルギー美術賞展（ドイツ・オランダ・ベルギー）、モダンアート関西展（米子市）、アトリエM作品展（県立近代美術館）、モダンアート徳島支部展（阿波銀プラザ）。
- 水間 利生 美術文化展：会員出品（東京都立美術館）、美術文化関西展（大阪市立美術館）、洋画部会員展（郷文）、世代美術展（シビックセンター）、美術文化四国支部展（高知ポプラ会館）、徳島通信病院内常設展示。
- 宮本 幸江 東光展：会友出品（東京都立美術館）、東光会徳島支部展、洋画部会員展、中央展出品絵画展、第85回徳島県女流美術作家協会展、第30回記念石井美術の会作品展（郷文）、二人展（シビックセンター）。
- 毛利 谷子 東光会展：会員推挙、第30回日展（東京都立美術館）、洋画部会員展、東光会徳島支部展、中央展出品絵画展、第85回徳島県女流美術家協会展、第30回記念石井美術の会作品展（郷文）、関西作家と文化交流徳島県女流美術家協会84回展（阿波銀プラザ）。
- 大塚 政孜 試行展（ヨンデンプラザ徳島）、洋画部会員展（郷文）、市場町文化協会展（市場町ふれあいセンター）、個展（市場町立図書館）、画集「吉野川と流域を描く」出版。
- 越久 高照 洋画部会員展、青美展、第1回県文化協会フェア出品（郷文）、藍美展（藍住町福祉センター）。
- 久米 正明 洋画部会員展（郷文）、北島町ふるさとを描き残す会展（北島町立図書館）。
- 二條 均 洋画部会員展、平和美術展、青美展（郷文）、板野美術クラブ展（四電）。
- 浜尾みつ子 洋画部会員展（郷文）。
- 板東 俊一 藍美展（藍住町福祉センター）。

- 堀切 蔦子 青彩美術展（シビックセンター）。
- 三沢 尚子 関西水彩画展（大阪市立美術館）、燎4人展、第85回徳島県女流美術家協会展、洋画部会員展（郷文）、関西作家と文化交流徳島県女流美術家協会84回展（阿波銀プラザ）、IRODORI水彩画展（喫茶グレース）。
- 三好 初子 東光展：会員出品（東京都立美術館）、徳島市文化展：無鑑査出品、洋画部会員展、東光会徳島支部展、中央展出品絵画展、第85回徳島県女流美術家協会展（郷文）、第27回徳島・仙台文化交流展（仙台市）、藍美展（藍住町福祉センター）。
- 岡田 光男 平和美術展、青美展、洋画部会員展、鴨島美術グループ展（郷文）。
- 岡本 征二 洋画部会員展（郷文）、土曜展（安田火災ホール）。
- 木村 健 Link展（阿波銀プラザ）、エナジー98展：特別賞（県立近代美術館）。
- 島上 二郎 東光会展（東京都立美術館）、洋画部会員展、東光会徳島支部展（郷文）。
- 下時治郎秀臣 白日会展：会員出品（東京都立美術館）、白日巡回展（名古屋・広島・鹿児島・大阪）、白日選抜展（広島天満屋・近鉄アベノ店）、かけがえのない現象展（日本橋三越）、麻の会展（徳島そごう）、鴨島美術グループ展（郷文）。
- 志摩 政照 鴨島美術グループ展（郷文）。
- 湯岑エミ子 洋画部会員展、鴨島美術グループ展（郷文）。
- 浅田 二郎 東光会展（東京都立美術館）、明石海峡大橋開通記念絵画展（阿波銀プラザ）、洋画部会員展、東光会徳島支部展、中央展出品絵画展、青美展（郷文）。
- 関 京子 八紅展（シビックセンター）、脇町文化祭美術展（脇町中学校）、八万文化祭（八万町コミュニティセンター）。
- 田所 米子 青美展、洋画部会員展、平和美術展（郷文）、草美展（東京浅草）。
- 藤本 晴子 二科展（東京都立美術館）、試行展（ヨンデンプラザ徳島）、洋画部会員展、中央展出品絵画展（郷文）、脇町文化祭美術展（脇町中学校）、明石海峡大橋開通記念絵画展（阿波銀プラザ）。
- 三谷多美子 二科展（東京都立美術館）、中央展出品絵画展（郷文）、試行展（ヨンデンプラザ徳島）。
- 金岡 義和 第24回現代童画会展：新人賞・会友推挙（東京都立美術館）、関西童画展（神戸アートホール）、中央展出品絵画展（郷文）、グループ翔展（ヨンデンプラザ池田）。
- 川原 康孝 教職員美術展：招待出品、洋画部会員展、第1回県文化協会フェア出品（郷文）、全美展、世代美術展（シビックセンター）、土曜画会展：三好文

化祭協賛出品、文協連三好郡交流美術展：三加茂まつり協賛出品、第2回グループ翔展（ヨンデンプラザ池田）。

○川原 真琴 洋画部会員展（郷文）、土曜画会展：三好文化祭協賛出品、文協連三好郡交流美術展：三加茂まつり協賛出品。

○木下 和江 洋画部会員展（郷文）、第2回グループ翔展（ヨンデンプラザ池田）、土曜画会展：三好文化祭協賛出品、文協連三好郡交流美術展：三加茂まつり協賛出品。

○田野 安子 第2回グループ翔展（ヨンデンプラザ池田）、土曜画会展：三好文化祭協賛出品、文協連三好郡交流美術展：三加茂まつり協賛出品。

○山口美千代 洋画部会員展（郷文）、明石海峡大橋開通記念絵画展（阿波銀プラザ）。

会員の訃報

片岡光子氏（グループ翔所属）が、平成10年10月ご逝去なされました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

写 真 部

部 会 長 櫛 淵 魏

年間展望

◎第53回県美術展（第1期：11月7日～15日 県郷土文化会館）

出品点数は毎年増加し、本年は1290点に達した。審査員は大阪芸術大学教授高田誠三先生にお願いした。入賞・入選236点、入選率18.3%の大変な難関となった。「徳島のレベルは高く、作品に対する作者の迫力を感じた。入選と落選の差は、物語性という（心）とカメラを使う（技）が一体になっているかどうかにある。入賞作品は、まさに心技一体の作品だった。」との審査評であった。

特 選	「乾杯」	多川 静守（特別賞）
	「社（やしろ）」	前坂 祥文
	「まなざし」	志摩 育美
	「母」	竹内 勝

準特選 川真田慶治・吉村敏嗣・森内昭雄・増田 寿・堀口幸男
小原 治・谷賢太郎・岡村 清

近年の傾向として、従来の常連組に伍して、若手、又新しい作家の台頭が著しいことが特筆される。開催前日の11月6日には徳島プリンスホテルにて表彰式が行われ、式後には受賞者、県展役員、美協役員、関係者によるオープニングパーティーが盛大に挙行された。

◎第7回放美展（5月27日～31日 県郷土文化会館）

放美展は1人3点以内の出品制限があるのにもかかわらず、本年は昨年を上回る500点の応募があった。年々盛んになる傾向は非常に喜ばしい。内容的にも高いレベルの作品が多く、秋の県展に対する春の放美展として立派な展覧会となった。審査員として荒井賢治、安長剛、武内亨の三氏があたった。入賞・入選170点とかなりの難関となった。

放美賞	「姉妹」	柳本 正
優秀賞	中村絹子・内田忠秋・瀬尾天止・小林保子・向儀一郎	
	田中伸廣・堀口幸男・近藤恵子・森内昭男・中村茂人	
	村岡洋一・岸田義市・正満恭子・藤本宗子・森住 博	
	折野理悦・野藤敏美・赤木昭子・中山良男・木村美沙子	

◎故 福島正仁先生記念碑の建立

昨年12月、西條征二氏を代表に発起人会（20人）を設立し、6月に逝去された先生の

一周忌をめどに記念碑の建立を決定し、募金活動を始めた。3月の締切日には129件の浄財が寄せられ、5月先生の生涯の地である満福寺境内に記念碑は完成した。5月6日、美協会長の佐野比呂志氏、県下の写真家多数が参加して除幕式が挙行された。なお、この記念碑建立の事務・会計を近藤誠造氏、石材の選定から設置までの実務一切を後藤能大氏、渡辺貞二氏にご尽力いただいたことを特記しておく。

◎県美協写真部撮影会（6月10日）

恒例の撮影会は、4月明石大橋が開通したこともあり、大橋経由で大阪城とその周辺で開催した。担当委員として三木晴夫、折野理悦、林敏彦、古井謙吉、井藤光章の各氏にあたっていただいた。参加者40名。

◎県美術家協会選抜展（3月13日～15日 県郷土文化会館）

第1回徳島県文化協会フェアの一環として、美協七部門の作品が郷土文化会館で展示された。写真部からは、荒井賢治、井藤光章、井上憲治、井上光雄、上野照文、大野武、折野理悦、川上たかと、木田英之、櫛淵魏、後藤能大の11名が出品した。

各分野での会員の活躍・会員所属の団体展等の活動状況

◎西條征二氏に県知事表彰（6月3日）

多年に亘る県美術家協会役員として、又写真の振興に寄与し、後進の育成・指導にわたる貢献に対して県知事表彰を受賞された。

◎西條征二写真展「撫養街道」時の流れに…（9月10日～13日 徳島市シビックセンター）

西條氏のライフワーク「撫養街道」の中、第1部として鳴門市域内分を白黒写真で全紙110点余を展示する。大規模かつ意欲的な個展で、大好評を博した。第2部の発表が待たれる。また、会期中9月12日、阿波観光ホテルで「西條征二さんの個展“撫養街道”を祝う会」が開かれ、県内文化人、美協役員、写真関係者150人が集い祝福した。

◎JPS「日本写真家協会展」（5月 東京都美術館）

会員出品：荒井 賢治

◎第46回二科会写真部展（9月1日～ 東京都美術館）

会友出品：荒井 賢治

入賞（奨励賞）：大和 健司

入選：森住 博

◎阿波踊り写真コンクール（長友健二審査員）

特 選：古井 謙吉・岩崎 英昭

準特選：野藤 敏美・板東 敏晴・原井 裕夫

ファミリー賞：柳本 正

- ◎第5回朝日四国写真展（11月 松山市にて審査）
 特選：川真田慶治
 奨励賞：井藤 光章
 入選：阿部 一雄・粟田ふさえ・大津 勝治・佐藤 義雄・古井 謙吉
 宮野 菁伍・安長 剛・大和 健司
- ◎「海部川賛歌」（1月5日～30日 銀座グレイスギャラリー）
 中川 定典・森下 元晴二人展
- ◎第6回コンタックスクラブ徳島支部展（1月16日～18日 ヨンデンプラザ徳島）
 支部長：森住 博
- ◎上野照文写真展「I'm here～虚無と孤独」（1月23日～25日 徳島市シビックセンター）
 全紙、全倍モノクロ作品40点を展示
- ◎第27回徳島県教職員美術展（1月30日～2月1日 県郷土文化会館）
 審査員：荒井 賢治
 招待出品：井上 光雄・勝西 雅夫・西條 征二・櫛淵 魏・酒井 博司
 武内 亨
- ◎第29回ナルトびんぼけクラブ写真展（2月8日～11日 鳴門市山高ギャラリー）
 会長：川上たかと
- ◎第13回全日写連県本部写真展（2月20日～22日 徳島市アミコシビックセンター）
 県本部委員長：井藤 光章
- ◎船越正文写真展（3月1日～31日 銀座グレイスギャラリー）
 カラー作品30点を展示
- ◎三好和義写真展「ぼくのふるさと阿波吉野川」（4月29日～5月5日 徳島そごう特設会場）
 写真集「ぼくのふるさと吉野川」（小学館）発刊記念展として、中央に先駆けて徳島にて展覧会
- ◎「徳島ライカクラブ」写真展（4月17日～19日 ヨンデンプラザ徳島）
 会長：武内 亨
- ◎第16回写真集団「風」作品展（5月1日～3日 徳島市シビックセンター）
 会長：安長 剛
- ◎第21回写真同人「炎」作品展（5月29日～31日 徳島市シビックセンター）
 会長：西條 征二
- ◎第5回写団「無」写真展（6月5日～7日 徳島市シビックセンター）
 会長：大野 武

◎第12回「徳島花を写す会」写真展（8月7日～9日 徳島市シビックセンター）

会 長：酒井 博司

◎日本リアリズム写真集団徳島支部展「如実知見」（8月18日～20日 ヨンデンプラザ徳島）

支部長：藤井 梵

◎鋭光会写真展（9月10日～13日 徳島市シビックセンター）

会 長：林 治郎

◎第38回徳島写楽会写真展（10月3日～5日 徳島市シビックセンター）

会 長：櫛淵 魏

◎徳島県秀作巡回美術展（10月～12月）

出品者：荒井 賢治・上野 照文・西條 征二・前浦 芳久

彫 刻 部

部 会 長 松 永 勉

年間展望

第53回県展（平成10年）は、審査を新制作協会彫刻部会員の番浦有爾先生にお願いした。出品点数は31点であり、入選作品点は27点となった。昨年より12点の減であった。やはり、彫刻の制作人口が増えないためか、出品点数が減る傾向になるのが心配である。彫刻を特別なものと考えずに気安く、立体造形を楽しむつもりで創作した作品などの出品があってもよいと思う。少数ながらも出品作は例年以上の内容のある作品であった。

審査評としては、「抽象と具象の出品はほぼ同数だが、抽象作品にレベルの高い手慣れた表現が見られた。一方、具象的作品はデッサン力が少し弱いように感じた。双方とも余計な要素が入ると、イメージがぼやける、例えば台座がうるさ過ぎるもの、台座の有無、素材の選択、作品本体とのバランスなど気を配るともっと良くなるだろう。今回は造形の技術、斬新さ、彫刻のもつ力強さ、直観的なインパクトの強さを重視して審査した。」とっておられた。

受賞作品として、特選（四国放送社長賞）に笠井正彦氏の“コンセンサス”が選ばれた。加工技術の秀れた完成度の高い石彫である。「有機的フォルムが印象的で、中央の赤い石がアクセントとなり全体を引き締めている」との評であった。石材加工業を営む傍ら彫刻を続け、年毎に力をつけている作家でもある。準特選の蒔田寿氏の“Derive from…”は「木の素材を生かし、重量感、動きがあり、単純な形だが、力強く優れた構成力だ」との評をいただいた。また、準特選の渋谷吉昭氏の“愛の言葉が聞きたい”は「堂々とした力強い裸婦像でデッサン力がある」という評をいただいた。二人とも今までに何回か受賞している作家で毎年力作を発表している。期待のできる作家であるので、今後とも頑張ってもらいたいと思う。

第7回放美展は出品総数が29点、石膏像が多く、基礎的な勉強をしている人の作品が目立った。放美賞には笠井正彦氏の“心”が選ばれた。色調の異なる色をループ状につなげた石彫で軽快さを感じさせ、楽しい雰囲気がある力作であった。優秀賞には玉田悦子氏と笠井瑠美氏の作品に決まった。二人とも具象作品で彫刻をよく研究している跡が見られる秀作であった。なお、今年の放美展の審査員には、井下俊作、大津文昭、佐藤隆の三氏が当たった。

会員消息

(県展・放美展関係は除く)

居上 真人	7月	居上真人石彫展	東京・銀座ギャラリー風童門
	9月	二科展・会友出品	東京都立美術館
	10月	第36回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
井下 俊作	2月	第1回県文化協会フェア出品	県郷土文化会館
	9月	第53回行動展・会員出品	東京都立美術館
	10月	第36回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
大津 文昭	2月	第1回県文化協会フェア出品	県郷土文化会館
	3月	明石海峡大橋開通記念野外彫刻展	神戸・舞子公園
	10月	第36回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
河崎 良行	2月	第1回県文化協会フェア出品	県郷土文化会館
	3月	球形のフォーメーション作品設置	宇部市宇部警察署
	8月	神戸～明石～淡路～徳島交流美術展	徳島県立近代美術館
	9月	広島県展審査員	広島県
	10月	第52回二紀展・委員出品	東京都立美術館
	12月	空間のシンフォニー作品設置 著作「河崎良行デッサン集」刊行	刈谷市刈谷総合病院
鎌田 邦宏	2月	第1回県文化協会フェア出品	県郷土文化会館
	8月	神戸～明石～淡路～徳島交流美術展	徳島県立近代美術館
	9月	徳島県秀作巡回美術展	県内6会場
	10月	第52回二紀展	東京都立美術館
佐藤 隆	2月	第1回県文化協会フェア出品	県郷土文化会館
	10月	第36回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
濱口 恵	2月	第1回県文化協会フェア出品	県郷土文化会館
	3月	濱口 恵個展(木版16点) 明石海峡大橋開通記念野外彫刻展	川島町立図書館 神戸・舞子公園
	4月	第48回モダンアート展(木版2点)	東京都立美術館
	8月	日仏現代美術博(木版1点)	パンフィコ横浜
	10月	第36回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
	11月	カルチャーセンター現代アート展・招待出品	ベルギー・ギャラリー らーてむ・いけだ
林 一美	3月	徳島市第26回芸術祭	県郷土文化会館
	4月	彫刻展	四電ギャラリー
東 光司	12月	モダンアート徳島支部展	阿波銀プラザ

松永 勉	2月	第1回県文化協会フェア出品	県郷土文化会館
	3月	清水市商店街再開発モニュメント設置 明石海峡大橋開通記念野外彫刻展	静岡県清水市 神戸・舞子公園
	4月	りんくうタウン・りんくう総合医療センターモニュメント設置	泉佐野市
	7月	松永勉彫刻展（彫刻作品集刊行）	徳島そごう
	9月	第53回行動展・会員出品 徳島県秀作巡回美術展	東京都立美術館 県内6会場
	10月	第36回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
蒔田 寿	8月	神戸～明石～淡路～徳島交流美術展	徳島県立近代美術館
	10月	第52回二紀展	東京都立美術館
	12月	徳島～神戸～明石～淡路交流美術展	淡路東浦サンシャインホール
渋谷吉昭	4月	第28回日彫展	東京都立美術館
	10月	第36回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
長岡 強	3月	第74回白日展・会員出品	東京都立美術館
	4月	第28回日彫展・会員出品	東京都立美術館
	11月	第30回日展	東京都立美術館

美術工芸部

部会長 山上 馨

年間展望

◎第53回県美術展（平成10年11月7日～15日 県郷土文化会館）

美術工芸部門の応募点数154点（応募者数117名）、入賞8点（特選2点・準特選3点・奨励賞3点）、入賞84点に無審査11点を加えた103点が総展示数であった。本年の審査は日展会友、東京芸大教授宮田亮平先生にお願いした。総評では「大変レベルが高く、審査に苦労した。他県では陶芸・織物など何らかの地場産業に重点が置かれ、他のジャンルのレベルが低くなりがちだが、徳島の場合はすべてのジャンルでいい作品がそろっていた。全体に素材の裏付けが取られている感じがして、しっかりとした感性が表現されていたと思う。審査は、作品の訴えかける力にポイントをおいた。県美術家協会会長賞（特選）の“炭化窯変大鉢”（陶芸）は非常に力強く、技術も大変しっかりしている。また、技術におぼれることなく、きちんと造形力も発揮している。下からせり上げてくるようなフォルムや縁の部分の量感は見事。うわぐすりのかすかな窯変の違いもきれいに出ていた。特選の井後善明“花器”（金工）は大きな翼を広げたようなシンメトリックな造形、華麗な透かした文様、ポイントにある銀の様式などが素晴らしい。特に生け花を包み込むような翼の感じが実に美しい。特別賞の受賞作と甲乙つけがたい出来だ。全般に、徳島の工芸はこのままの方向で進んでいけばいいと思うが、強いていうなら、もっと自分から発する造形力のある作品がほしい。伝承の技術だけでなく、それを打ち崩すような新しい表現力や感性を持った作品が出てくればさらに良くなるだろう。」……

と、徳島県の美術工芸への取り組みについて貴重な示唆をいただいた。

特選（県美術家協会会長賞）	森 明治「炭化窯変大鉢」
特選	井後 善明「花器」
準特選	斎藤 和彦「'98山の詩」
〃	吉田 真弓「水のワルツ」
〃	藤井 哲信「レース紋帯祭器」
奨励賞	平井 恵子「風の思い」
〃	丸居 哲雄「ゆらぎ」
〃	岡崎 益子「乾漆喰籠“秋分”」

美術工芸部では、例年審査終了後、「審査員を囲む会」を設け、作品を通して個人的に審査員の指導を受ける機会をつくっているが、私たちが美術工芸という世界で、表現や制作の確かな方向を見定めるよい機会であると思っている。これからも出品者の積極的な参加

を期待したい。

◎第7回放美展（平成10年5月27日～31日 県郷土文化会館）

美術工芸部門は応募点数105点（応募者数74名）で前回をやや下回ったが質的向上が顕著であった。入賞6点（放美賞1点、優秀賞5点）、無審査出品3点で総展示数72点であった。陶器が約半数を占めたが、染色・ガラス・着物・パッチワーク・金工等各ジャンルでも平均的な出品がみられ、作品の質の向上とともに堅実な発展が見られた。放美賞の桜井慎治「舞輪」は陶器のもつ暖かさは見事で、デザインを工夫して作者の意図を強く表現し、炎による焼締めと発色の偶然性を生かした秀作である。優秀賞の前野亮治「初秋」は染織着物で落ち着きのある色調、裾、袖の格子模様を織り込んだ構成がすばらしい。鳥井明子「シンフォニー」はパッチワークで立体感のある円を使って音の広がり表現し迫力のある作品となっている。林谷瑞穂「映」・染色は水面に映る藤を優雅な色調で表現した落ち着きとセンスのある作品である。矢野順三郎「鉄釉流線文花器」は従来の花器にない現代的なデザインが見事な陶芸作品となっている。吉田敏明「春の息吹き」・陶芸は丸い壺の形と流線文を見事に調和させた技術的にも高度な力作である。力作がふえ、審査中に賞候補が沢山出て、全体的に重厚な作品が出揃うようになったのが今回の特色であったように思う。

放美賞	桜井 慎治「舞輪」
優秀賞	前野 亮治「初秋」
〃	鳥井 明子「シンフォニー」
〃	林谷 瑞穂「映」
〃	矢野順三郎「鉄釉流線文花器」
〃	吉田 敏明「春の息吹き」

会員消息

（県展・放美展関係は除く）

天野 和子	◦ Exposition Art Jextile Contemporain出品	9月	仏ブルターニュトレブアレ城
犬伏 絢	◦ 第53回新匠工芸展（奨励賞）	11月	京都市立美術館
	◦ 犬伏絢染織展	12月	阿波銀プラザ
多智花佐代子	◦ 第37回日本現代工芸美術展（審査員出品）	3月	東京都立美術館
	◦ 第29回日展徳島展	4月	県郷土文化会館
	◦ 第9回現代工芸ゆめいろ展	4月	高松・三越
	◦ 第30回日展	11月	東京都立美術館
	◦ 第2回「工芸5人展」	11月	阿波銀プラザ
	◦ 第36回現代工芸美術家協会四国会展	12月	高松・三越

九十九健二	◦ 第一美術展	5月	東京都立美術館
富田ちえ子	◦ 染色同好すなご会展	6月	牟礼町石の民族資料館
新居 猛	◦ 「ニーチェアX」 Confort誌No31に “国際的ベストセラー”として掲載	1月	
	◦ 「椅子のデザイン」講義	6月	山脇美術専門学院
	◦ 徳島県海外市場調査参加	8月	大連・青島・上海
	◦ 「ニーチェア・プレア」Gマーク商品に選定	10月	通産省
	◦ 「ニーチェアX80」JIDによる「椅子」 100人100脚100m展出品	11月	東京国際家具見本市
野田 理人	◦ 徳島市芸術祭文化展（奨励賞）	3月	県郷土文化会館
	◦ さかいでArtグランプリ	4月	さかいで市民美術館
	◦ 第26回徳島県手工芸家協会作品展（奨励賞）	10月	県郷土文化会館
	◦ 第8回公募ステンドグラス美術展	10月	名古屋
野村 裕子	◦ ハンズ・オールマラウンドⅣ国際キルト展		
平井 恵子	◦ 日本現代工芸美術展	10月	東京都立美術館
	◦ 大津市美術展（無鑑査）	10月	大津市歴史博物館
	◦ 滋賀県展	10月	滋賀県文化産業交流会館
	◦ 第30回日展	10月	東京都立美術館
平野仁太郎	◦ 徳島陶芸展	3月	徳島市シビックセンター
村上 正典	◦ 徳島陶芸展	3月	徳島市シビックセンター
	◦ 日府展	5月	東京都立美術館
	◦ 正倫会展	7月	ヨンデンプラザ徳島 県文化財課 一燈寮宝祭準備会
	◦ 桃葉作海有鞍調査		
	◦ 丈七阿波焼調査		
山本 和子	◦ 第37回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	◦ 第9回徳島現代クラフト展	3月	県郷土文化会館
	◦ 第9回現代工芸ゆめ色展	4月	高松・三越
	◦ 第5回創り手人53人展	6月	広島県立美術館
	◦ 第5回山本和子染色展	7月	徳島市シビックセンター
	◦ 第36回現代工芸美術家協会四国展	12月	高松・三越
四十宮年代	◦ 第26回徳島市芸術祭文化展（招待）	3月	県郷土文化会館
	◦ 第21回日本染色作家展	4月	京都文化博物館
	◦ 第33回中部染色作家協会展	7月	愛知館美術館

	◦ 横浜シルク博物館染織展	8月	横浜シルク博物館
	◦ 第41回日本工芸会四国支部展	11月	高松・三越
大西 義浩	◦ 第5回徳島の陶芸展	2月	徳島そごう
	◦ (はな・はる・フェスタ) 陶壺・陶音大谷焼展	4月	ヴォードウォーク
	◦ 1998年第40回日本民芸公募展	11月	日本工芸館
椋原 道雄	◦ 第11回全国健康福祉祭名古屋愛知大会美術展 (美術工芸の部 優秀賞)	11月	名古屋市国際会議場
松山 豊	◦ 徳島陶芸展	3月	徳島市シビックセンター
	◦ 徳島陶炎会展	6月	徳島歴史資料館
	◦ 鳴門市展	10月	鳴門市市民会館
	◦ 松茂文化祭	11月	松茂歴史資料館
森 悦光	◦ 明治神宮へ壺を献納	11月	
矢野 款一	◦ 徳島・兵庫交流陶芸展	4月	恰美術館
	◦ 日本伝統工芸正会員展	5月	東京日本橋・三越
	◦ 陶の会	9月	徳島市シビックセンター
	◦ 日本工芸会四国支部展(審査員出品)	11月	高松・三越
影谷美代子	◦ 徳島平和美術展	6月	県郷土文化会館
	◦ 小松島市芸術祭染色展	11月	小松島中央会館
斎藤 和彦	◦ 彫金七宝三人展	1月	ヨンデンプラザ徳島
	◦ 県手工芸展(優秀賞)	10月	県郷土文化会館
	◦ 日本七宝作家協会展	10月	上野の森美術館
宮本 孝	◦ 宮本二人展(洋画・彫塑・陶芸)	5月	徳島市シビックセンター
	◦ 平和美術展	6月	県郷土文化会館
	◦ 宮本作品集出版	8月	
寒川 治雄	◦ 第5回県高齢者美術展(県議会議長賞)	10月	県郷土文化会館
武田 美子	◦ 和展日本和紙ちぎり絵協会	6月	上野の森美術館
橋 恵	◦ 阿波の工芸五人展	11月	阿波銀プラザ
丸居 哲雄	◦ エナジー98(障害者芸術祭)	9月	文化の森美術館
	◦ 上板町美術愛好会作品展	11月	上板町技の館
川真田 弘	◦ とくしま藍フェスタ 「藍のリビングアートコンテスト」(最優秀賞)	5月	上板町技の館
鶴山 早苗	◦ とくしま藍フェスタ 「藍のリビングアートコンテスト」	5月	上板町技の館
堺 都美子	◦ 日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館

- 現代工芸四国展 4月 香川文化会館
- ゆめ彩展 4月 高松・三越
- 平和美術展 6月 県郷土文化会館
- 藍住美術家協会展 10月 藍住町社会福祉センター

書 道 部

部会長 新居 藍州

年間展望

県立文学館・書道美術館（仮称）関係については、建設にむけて今年も着々と準備が進められた。平成9年の基本構想検討委員会の成果をうけて、今年、書道美術館については「展示・資料収集方針検討委員会」（会長 田中双鶴、委員 東南光・久保幽香・日野俊顕・新居藍州）が設けられて7月29日以後計4回の委員会が開かれ、1. 書道美術の展示構成（嵯翁・悟竹・奇石・書と徳島の4テーマ）2. 資料の収集について（嵯翁・悟竹・奇石の書作品、徳島の書家の作品、文房四宝・書道に関する資料、図書資料、徳島の書の歴史に関する資料）3. 事業活動（研究事業、教育普及事業、広報・出版事業、資料収集事業、展示事業）その他、企画展示の構想、資料収集方針などについて検討が行われ一応の結論を得た。この関係の今後の進行としては、いずれ、資料収集のための検討委員会などが持たれると考えられるし、2003年度開館とされる目標にむけて設計段階へも着手されるであろう。最近の報道によると平成11年度の関係予算として2億1900万円が見込まれているということであり誠に心強いところである。

◎ 第53回県展は、出品点数1,277点、出品者数800名と前回比出品点数で約7%、出品人数では、0.3%の減となっている。1点出品者の増加によるものであるが、出品者数に対する入選（入賞）者の比率は、漢字50.2%、仮名65.9%、近代詩文81.1%、前衛82.9%と著しい差異が見られ何らかの対策が必要な段階に至ったようである。

◎ 第7回放美展の公募出品は118点で前回比45点減となっているが、壁面の制約もあり、入選率は87.2%となった。

◎ さらに本年間で特筆すべきことは、勝瀬景流氏が一昨年に引き続いて日展において2度目の特選の栄を得られたことである。本県在住の作家としてはじめての快挙であり、今後一段の活躍が期待される。

また、至難と言われる新入選に富久鳴泉・古川秀恵・西岡五峰の3氏が選ばれたことも大きい成果であった。

◎ 社中展・個展等（県内開催分）

- | | | | |
|--------------------------|-------------|--------|------|
| ・書研社女流五人展 | 徳島市シビックセンター | 2月13日～ | 15日 |
| 岡島順子・近藤静苑・竹田和代・中谷史子・中尾勝子 | | | |
| ・第11回長玄書道会展 | 阿波銀プラザ | 4月9日～ | 12日 |
| ・第15回記念チャリティー田中双鶴書作展 | そごう5F画廊 | 4月29日～ | 5月4日 |

◦ 第5回大耿会書作展	県郷土文化会館	6月19日～	21日
◦ 第61回徳島書芸院展	県郷土文化会館	9月4日～	6日
◦ 第28回東玄書道会展	県郷土文化会館	9月4日～	6日
◦ 第21回泉心会書作展	県郷土文化会館	9月12日～	15日
◦ 第27回徳島雪心会書作展	県郷土文化会館	9月13日～	15日
◦ 第28回直心会書展	県郷土文化会館	9月25日～	27日
◦ 古稀記念春藤大耿書作展	県郷土文化会館	10月2日～	4日
◦ 第33回書道研究清潮書作展	県郷土文化会館	10月8日～	10日
◦ 第19回書研社展	徳島市シビックセンター	11月11日～	13日
◦ 第7回砂光篆会作品展	阿波銀プラザ	11月13日～	15日
◦ 第10回記念睦月会書展	徳島市シビックセンター	11月14日～	16日
◦ 第28回光輪社書作展	徳島市シビックセンター	11月28日～	30日
◦ 第25回記念双暢会書展	県郷土文化会館	12月28日～	20日
◦ 第2回せせらぎ書展	徳島市シビックセンター	12月19日～	21日

個人消息 (平成10年1月～12月)

1. 中央展・県外展に審査員・役員として活躍し、作品を発表した人々

- 第39回太玄会書展 (東京都美術館 1/11～17)
田中双鶴・岡島順子・大櫛一峰・春藤大耿
- 第20回青潮会全国書展 (大阪市立美術館 1/13～18)
西 南龍
- 第26回日本の書展 (東京セントラル美術館 2/2～8)
久保幽香・近藤聖邨
- 東京書作展選抜作家展 (東京都美術館 2/20～26)
田中双鶴・近藤静苑・中尾勝子・春藤大耿
- 第52回日本書芸院展 2月展・4月展・役員展
(大阪市立美術館・松阪屋 2/10～15 4/7～12 5/21～26)
東 南光・伊丹東龍・上田溪水・近藤聖邨・島田小園・隅田英二・高田青蓮
長江頌石・能仁華瑤・古川秀蕙・吉田素川・東 弥生・勝瀬景流
- 第34回創玄展 (東京都美術館ほか 3/8～13)
荒井天鶴・荒井彭仙・玉城乾香・永松春苑・高岡晃祥・佐原和清・坂本霄風
久保幽香・岸 潮風・浜 佳香・多田清芳・長原阜鵬
- 第17回日本刻字展 (東京都美術館 3/7～21)
横田素林

- 第20回日本書道学院展（東京都立産業貿易センター 3 / 27～29）
勝瀬景流・薄田玲泉・赤川景舟・河野真流・近藤俊流
- 第14回日本篆刻展（大阪市立美術館 5 / 12～17）
横田素林
- 第21回日本かな書展（東京日本橋高島屋 5 / 14～19）
讃岐泰泉・藤若美風
- 第50回毎日展（東京都美術館 7 / 8～17）
〃 四国展（愛媛県立美術館 12 / 22～27）
荒井天鶴・荒井彭仙・玉城乾香・永松春苑・長原皐鷗・久保幽香・岸 潮風
浜 佳香・多田清芳
- 第15回産経国際書展（東京サンシャインシティ文化会館 7 / 25～30）
讃岐泰泉・藤若美風
- 平成の書選抜展（住友展望画廊 8 / 1～10）
浜 佳香
- 第23回日本の女流書展（東京セントラル美術館 8 / 4～9）
久保幽香
- 第15回読売書法展（広島県立美術館ほか 10 / 7～11）
東 南光・伊丹東龍・上田溪水・近藤聖邨・隅田英二・高田青蓮・長江頌石
新居藍州・能仁華瑤・張 美鶴・古川秀蕙・山口華城・東 弥生・勝瀬景流
河野真流・薄田玲泉・竹内虹舟・長谷美峰
- 第24回創玄現代書展（東京セントラル美術展 11 / 3～8）
久保幽香・多田清芳
- 毎日書道小品展（東京日本橋三越本店 11 / 10～15）
久保幽香
- 第38回璞社書作展（大阪市立美術館 11 / 25～29）
上田溪水・東 南光・馬居汀香・春藤大耿・鈴木恵理・東甫白亭・長江頌石
松本深翠・吉田素川
- 第20回東京書作展（サンシャインシティ文化会館 12 / 1～6）
田中双鶴・近藤清苑・中尾勝子・春藤大耿

2. 中央展・県外展に入賞した人々（社中展を除く）

- 第39回大玄会書展（東京都美術館 1 / 11～17）
（奨励賞） 鈴木理恵・古郷弘江
（推薦） 西 直子・播磨恭子・吉田翠彩
（準特選） 田上洋香

- 第52回日本書芸院展 2月展（大阪市立美術館 2／10～15）
 - （大 賞） 高田青蓮・東 弥生
 - （一科会員推薦賞） 川村春琴・谷口清水・長尾愛香
 - （二科会員推薦賞） 三條昊蒼・横田茜子・横山弘美・吉田京子・児島晃山
- 第52回日本書芸院展 4月展（大阪市立美術館 4／7～12）
 - （特別賞） 清水桂月・豊浦春光・八木藍玉・福家美鷗
 - （特 選） 黒田清菫・清水恵美・松浦翠香・馬淵直枝・矢部知子・品川淹華
益田光舟・宮守崇流・柘木香雲
- 東京書作展選抜作家展（東京都美術館 3／20～26）
 - （芸術新聞社賞） 西谷香峰
- 第20回日本書道学院展（東京都立産業貿易センター 3／27～29）
 - （大 賞） 倉本景雨
 - （中国大使館賞） 宮守崇流
 - （推 薦） 高島星流
- 第50回毎日展（東京都美術館 7／8～12）
 - （秀作賞） 佐藤宗香・坂本霄風・大西清葩・平岡幽琴・庄野星暉
- 第15回産経国際書展（東京池袋サンシャイン文化会館 7／25～30）
 - （産経準大賞） 出口末喜子
 - （産経新聞社賞） 高橋宗見
 - （会友賞） 河野静江・藤原育代・中谷つや子・三浦由城子
 - （秀 作） 市川陽子・佐藤紀子・中田須美子・湊 紀子・豊原淳子
- 第15回読売書法展（広島県立美術館 10／7～11）
 - （読売新聞社賞） 東 弥生
 - （特 選） 宮守崇流・上田輝芳
 - （秀 逸） 酒井萌邨・福家美鷗・吉田素川・近藤俊流・鶴澤輝流・森 光翔
倉本景雨
- 第20回東京書作展（東京サンシャインシティ文化会館 12／1～6）
 - （特別賞） 南 溪石・須原理恵・中野春江
 - （特 選） 魚井香光・稲垣幸風
 - （優秀賞） 馬井汀香・井川幸子・原田尚鳳・松永裕子
 - （奨励賞） 富永竹香
- 第30回日展（東京都美術館 11／2～24）
 - （特 選） 勝瀬景流
 - （入 選） 古川秀蕙・富久鳴雲・西岡五峰

デザイン部

部会長 福井 章

年間展望

平成10年2月に開催された「第1回徳島県文化協会フェア」の県美術家協会選抜展には、デザイン部からは北島豊嗣、坂野美恵子、斎藤繁次、敷島のり子、福井章の5名が参加した。また、このフェアのポスター、パンフレット、各部のチケットなど全体のデザインは部会員の吉本實が担当、制作にあたった。

第7回放美展は審査員が坂本三千一、坂野美恵子、浅野昌哉の3人があたった。応募総数は6回展より減少して71点。その中から放美賞には的井瑞枝、優秀賞には山下真由美、北島豊嗣、大東浩司が選ばれた。応募点数が少なくなっているのが気掛かりだが、作品はコンピューターによるもの、手描きのもの、立体など、手法が混在する状態があり、時代を感じさせるものとなっている。中でもこれからはコンピューターを利用した作品が多くなるだろうが、デザインの可能性を開いていくものとして期待したいものだ。

第53回徳島県美術展は、審査員に早川良雄氏（東京）を招いて行われた。応募点数128点。特選2、準特選3、奨励賞3、入選47点が選ばれた。特選は四十宮隆志（県議会議長賞）、小笠原重昭、準特選は北島豊嗣、沢口功、大東浩司、奨励賞は溝淵良枝、斎藤剛、荒瀬奈緒が受賞した。放美展と同様に応募点数が多少減少した。原因はわからないが、若い人たちの作品が多いデザイン部にとって、これからどのように進めていけば良いのか考えなければならないだろう。審査員の早川氏からは「賞候補に残った作品は力が伯仲していた」と評価された。ただ、2点以上入賞者が10人いたことで結果的に出品者に厳しいものとなった。審査は審査員の考えで行われるものであるが、個人の立場からすれば、多くの出品者に入選させたい気持ちも残った。恒例により、今回もポスター、図録、チケットのデザインは、デザイン部に委託され坂本三千一が担当した。

'98年は、部会展も開催されず、活動が停滞したことを反省している。特記すべきことは、部としては名目だけの参加だったが、部会員の敷島のり子が実行委員として活躍した「ポスターギャラリー」の計画が実現し、新町川沿いのボードウォークに設置されたことである。このポスターギャラリーが（運営などの残された問題点があるが）屋外美術館として、一基だけでなく多数できれば、徳島の名物になる可能性があるので、発展を望みたいものである。

会員消息

(放美展・県展関係は除く。順不同)

■沢口 功

- | | | |
|-----|------------------------|------------|
| 3月 | 徳島市芸術祭文化展：招待出展 | 郷土文化会館 |
| 5月 | 神戸ー鳴門ルート全通記念ホロンイベント参加 | 羽ノ浦町立図書館 |
| 9月 | I so Sawaguchi展 | 小松島市喫茶やまなみ |
| 12月 | 第27回歳末チャリティー作品・色紙即売展出品 | 徳島そごう |

■坂野美恵子

- | | | |
|-----|-------------------------|--------|
| 1月 | 二科展（高松巡回展）出品 | |
| 2月 | 第1回徳島県文化協会フェア出品 | 郷土文化会館 |
| 10月 | 県秀作巡回美術展出品 | 県内市町村 |
| 12月 | 二科会デザイン部展（四国地区）出品 | |
| | 第37回京都デザイン大賞コンペ：1998準大賞 | |

■福井 章

- | | | |
|-----|---------------------------|------------|
| 2月 | 第1回徳島県文化協会フェア出品 | 郷土文化会館 |
| 8月 | JAGDA阿波踊りポスター展出品：徳島新聞作品掲載 | 新町川ボードウォーク |
| 10月 | 県秀作巡回美術展出品 | 県内市町村 |
| 12月 | 第27回歳末チャリティー作品・色紙即売出品 | 徳島そごう |

■吉本 實

- | | | |
|-----|---------------------------|-----------|
| 8月 | JAGDA阿波踊りポスター展出品：徳島新聞作品掲載 | 新町ボードウォーク |
| 10月 | 第10回徳島デザインドリーム展出品 | 徳島市立木工会館 |

■北島 豊嗣

- | | | |
|-----|-----------------|--------|
| 2月 | 第1回徳島県文化協会フェア出品 | 郷土文化会館 |
| 3月 | 徳島市芸術祭文化展出品 | 郷土文化会館 |
| 11月 | レタリングクラブ展出品 | |

■坂本三千一

- | | | |
|-----|--|------------|
| 8月 | JAGDA阿波踊りポスター展出品：徳島新聞作品掲載
(併設：ポストカード・Tシャツ展) | 新町川ボードウォーク |
| | 第2回県民文化祭：第53回県美術展ポスター制作 | |
| 12月 | 第27回歳末チャリティー作品・色紙即売展出品 | 徳島そごう |

■田中 一郎

- | | | |
|-----|--|--|
| 9月 | 第6回“燃えさかる西陽”音楽祭 in 青木邸ポスター
チラシ、パンフレット、チケットのデザイン | |
| 10月 | 第19回ヴォーカルグループ Sole コンサートポスター
チラシ、パンフレット、チケットのデザイン | |

11月 第13回徳島ジュニアコーラス定期演奏会チラシ、
パンフレット、チケットのデザイン

■斎藤 繁次

2月 第1回徳島県文化協会フェア出品	郷土文化会館
サイトウシゲジ「普通の生活」展	ドクターエンドー鳴門店
第1回徳島県文化協会フェア出品	郷土文化会館
3月 写楽展出品	郷土文化会館
徳島市芸術祭文化展出品	郷土文化会館
8月 斎藤繁次、野野瀬みどり展	アトラインショールーム
9月 死と再生の阿波展	文化の森
10月 第10回徳島デザインドリーム展出品	徳島市立木工会館
リキテックスビエンナーレ展：入選	東京他
11月 藍美展出品	藍住町福祉センター

■斎藤志津子

3月 写楽展出品	郷土文化会館
5月 「FLOWER」斎藤志津子展	小松島市喫茶やまなみ
9月 死と再生の阿波展	文化の森
10月 リキテックスビエンナーレ展：入選	東京他
11月 藍美展出品	藍住町福祉センター

■四十宮隆志

4月 第7回国際アニメーションフェスティバル 広島大会98（8月開催） ：徳島アニメスタジオ作品出品と参加	
11月 第3回ぐるぐる展：デザイン5点と映像4点出品	鳴門教育大学OB主催
第29回アニメーション全国総会 in 愛知 ：徳島アニメスタジオ作品出品	
第3回アニメーション神戸：受賞式とレセプション参加	

■敷島のり子

2月 第1回徳島県文化協会フェア出品	郷土文化会館
3月 写楽展出品	郷土文化会館
徳島市芸術祭文化展出品	郷土文化会館
7月 世代美術展	シビックセンター
9月 シンポジウム「デザインよ街へでよ」 ポスターギャラリーの活動事例報告	ホテルクレメント徳島

10月 第10回徳島デザインドリーム展出品

徳島市立木工会館

12月 敷島のり子展（第2回個展）

Wake Upギャラリー

■岩佐 雅功

3月 徳島市芸術祭文化展出品：徳島市文化協会会長賞

郷土文化会館

第53回徳島県美術展（県展）公募規定

区分	部門						
	日本画	洋画	写真	彫刻	美術工芸	書道	デザイン
搬入日	10月11日	10月10日	10月18日	10月11日	10月11日	10月17日	10月11日
搬入先	徳島県郷土文化会館						
審査日	10月11日	10月11日	10月18日	10月11日	10月11日	10月18日	10月11日
審査員	那須勝哉	藤田吉香	高田誠三	番浦有爾	宮田亮平	杭 迫 柏 樹 藤 木 正 次 吉 田 成 堂	早川良雄
出品料	協会員 1点目 2,500円		その他の方 3,500円		2点目からはすべて 1,500円		
出品制限・大きさ・仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> 未公開作品に限る 点数は制限なし 小・中学校在学者は出品できない 20号以上額プチふくめタテ、ヨコ1.9m以内、額・枠張り（ガラス・アクリル不可） 吊り紐 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 20号以上（水彩は20号以上 版画は10号以上とする） 額 吊り紐 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 組・単写真とも画面サイズ、半切以上（カラーは印画に限る） 無鑑査以上は画面サイズ半切以上、単写真に限る パネル張り・額（組写真は1パネル（90×180cm以内）に全作品をレイアウトしたもの又は全作品を固定したもの） 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 高さ2m×幅1.5m×奥行1.5m重量200kg以内 材料は自由、展示可能なものに限る 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 大きさ制限なし（ただし、平面作品はタテ1.8×ヨコ1.5m以内） 木・竹・金工・陶磁・漆・染色・織物・人形・ガラス等 展示できる用具をつける 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 半切又は全紙横$\frac{1}{2}$以上、仕上がり面積が1.47㎡（16平方尺）以内、縦・横自由 巻子本・帖（40×300cm以内）（例） 61cm（2尺）×242cm（8尺）枠張 79cm（2.6尺）×181cm（6尺）枠張 91cm（3尺）×161cm（5.3尺）枠張 121cm（4尺）×121cm（4尺）枠張 半切・全紙$\frac{1}{2}$・聯落まで額装 アクリル入りでもよい 無鑑査以上は半切以内 部門は漢字・仮名・近代詩文・前衛とする 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 B1パネル 横728×縦1,030ミリ 厚さ5～75ミリ程度 重さ5kg以内 課題は自由（実在の商品名・会社名等は除く） 法的規制に触れないこと 吊り紐
入賞	特別賞 1点 特選 2点 準特選 3点 奨励賞 3点 入選 規定数	特別賞 1点 特選 3点 準特選 5点 奨励賞 5点 入選 規定数	特別賞 1点 特選 4点 準特選 8点 奨励賞 8点 入選 規定数	特別賞 1点 特選 1点 準特選 2点 奨励賞 2点 入選 規定数	特別賞 1点 特選 2点 準特選 3点 奨励賞 3点 入選 規定数	特別賞 1点 特選 8点 準特選 13点 奨励賞 13点 入選 規定数	特別賞 1点 特選 2点 準特選 3点 奨励賞 3点 入選 規定数
（各部門とも特別賞は特選の内数）							
その他	<ul style="list-style-type: none"> 落選作品は審査終了後、各部門で決められた日時までに搬出すること。 展示作品は一期は11月15日（日）、二期は11月24日（火）の午後5時から午後6時までに搬出すること。 所定の期日までに搬出しない場合は主催者において処分する。 						

第 53 回 県 美 術 展

特別・招待・無鑑査・賛助出品者名

☆ 日 本 画

(招 待)	長 尾 弘 子	村 上 凌 雪	橋 本 正 弘
	中 川 健	岡 英 彦	土 方 るみ子
	西 野 和 男	土 井 洋 子	
(賛助出品)	森 葛 苑	高 田 瑞 雪	長 谷 壽

☆ 洋 画

(特別出品)	佐 野 比呂志	永 山 隆 二	長 井 公 雄
(招 待)	清 水 亟 愼	川 原 康 孝	楠 瀬 等
	高 橋 敬	立 岩 巖	露 口 敏 幸
	服 部 裕	岡 本 征 二	長 尾 弘 久
(賛助出品)	浅 田 二 郎	天 野 節 市	岡 多美子
	柏 木 雅 雄	河 田 安 俊	黒 崎 志 郎
	後藤田 仁 一	板 東 田	榭 田 務
	松 川 寛	岡 田 守	

☆ 写 真

(招 待)	増 田 清 次	井 上 光 雄	木 田 英 之
	西 條 征 二	勝 西 雅 夫	藤 井 洩 魏
	武 内 亨	笹 田 敏 和	櫛 野 照 文
	酒 井 博 司	三 好 圭 祐	上 野 長 剛
	森 賢 一	橋 本 圭 治	安 林 敏 彦
	前 浦 芳 久	荒 井 井 謙 吉	中 野 建 吉
(無 鑑 査)	多 田 晴 美	古 井 藤 光	柳 本 正

☆ 彫 刻

(特別出品)	河 崎 良 行		
(招 待)	佐 藤 隆 作	大 津 文 昭	濱 口 恵
	井 下 俊 人	鎌 田 邦 宏	松 永 勉
(無 鑑 査)	居 上 真 人		
(賛助出品)	長 岡 強		

☆ 美術工芸

(特別出品)	山 上	馨						
(招待)	新 居	猛	高 橋	勇	多智花	佐代子		
	松 下	介	松 下	慶	森	賢 一		
	橋	雄						
(無鑑査)	犬 伏	介						
(賛助出品)	村 上	恵	中 川	存				
		絢						
		典						

☆ 書 道

(特別出品)	荒 井	天 鶴	田 中	双 鶴	田 中	栢 翠		
(招待)	新 居	藍 州	讚 宮	岐 井	長 原	原 梶		
	久 保	幽 香	宮 西	井 南	成 尾	尾 梶		
	高 原	清 泉	西 原	田 霄	芝 原	原 醒		
	渡 辺	草 石	清 水	水 桂	美 馬	幾 美		
	前 川	古 舟	岸 清	瀨 田	中 谷	史 賀		
	春 藤	大 耿	勝 上	田 景	川 上	虹 子		
	長 谷	美 峰	荒 藤	井 溪	日 下	和 翠		
	近 藤	静 苑	佐 島	若 美	竹 田	鳴 雲		
	岡 島	順 子	藤 佐	藤 美	武 市	久 泉		
	山 口	華 城	島 小	英 乾	富 本	本 香		
	中 尾	勝 子	隅 玉	華 華	坂 松	清 清		
	永 松	春 苑	能			山 泰		
	浜 田	佳 香						
(無鑑査)	多 田	芳 泉						
(賛助出品)	薄 東	玲 南						
		光						

☆ デザイン

(特別出品)	福 井	章				
(招待)	浅 野	昌 哉	斎 藤	繁 次	坂 野	美恵子
(賛助出品)	坂 本	三 千 一				

あ と が き

1999年報をおとどけいたします。

最近、展覧会の鑑賞者が減少しているときありますが、第53回県美術展と第7回放美展も前回展に比べて多少減少しています。特に若い層（大学生以下）の方の展覧会ばなれが目立つようになり、若いときにいい展覧会をみて感性を養う必要があるのと言われています。関係者は何かいい方策はないかと考えさせられています。

21世紀もまもなくやってまいります、歴史と伝統のある県美術展をどう発展させるか考えなくてはと思います。

本年も各部会長に各部の年間活動をまとめていただきましたが、会員ひとりひとりが積極的なかわりをもって、本県の美術振興のためにご活躍くださればと思っています。表紙については、日本画部の岡英彦氏にいただきました。

春の放美展と秋の県美術展は本会の二大イベントですが、皆様のご協力をお願いいたします。

会員の皆さんがご健勝で創作活動に励まれ、多方面でのご活躍を祈念いたしております。また、本会の発展のために何かとご高配の程お願いいたします。

平成11年3月

県美術家協会事務局

美 術 年 報 1999年

平成11年3月30日 印刷

平成11年3月31日 発行

編集者 清 水 博
装幀者 岡 英 彦
発行人 佐 野 比呂志
印刷所 原田印刷出版株式会社
発行所 徳島県美術家協会
(徳島市名東町1丁目246 清水方)
